

KAMI-KAMBAI

AZUMA Area.

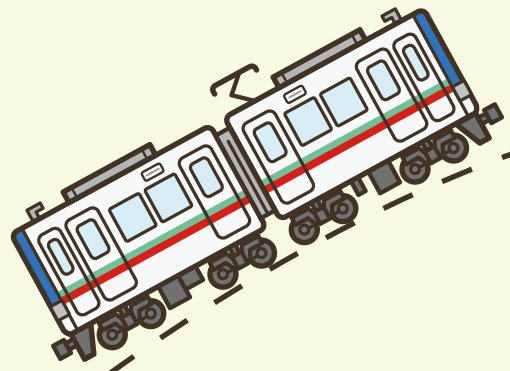
R



OMAMA



AKAGI



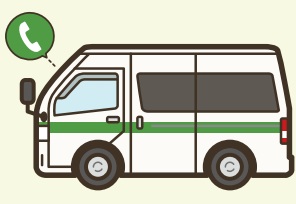
MIDORI CITY

地域公共交通計画

2026 - 2030

MAEBASHI

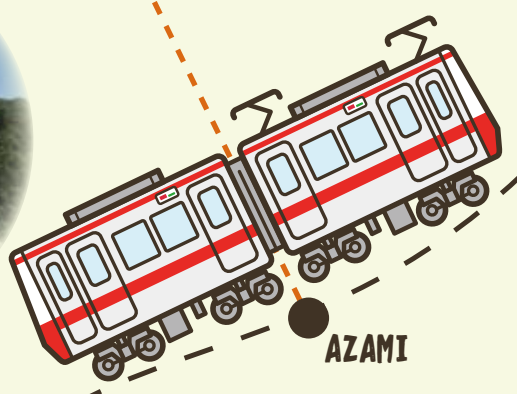
KIRYU



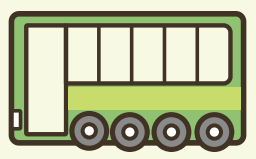
IWAJUKU



ISESAKI



AZAMI



OTA

目次

第1章 計画の概要	1
1-1 計画策定の背景・目的.....	2
1-2 計画の区域.....	2
1-3 計画の期間.....	2
1-4 本計画と各種計画等の関係	3
第2章 みどり市における公共交通の課題	11
2-1 みどり市地域公共交通の課題(テーマ)の整理.....	12
第3章 基本的な方針・目標、施策	25
3-1 基本的な方針・目標.....	26
3-2 みどり市地域公共交通計画での公共交通ネットワーク	27
3-3 目標達成のための施策・事業	36
第4章 計画の評価・進行管理	63
4-1 評価指標・目標値.....	64
4-2 計画の推進・進行管理.....	69
参考資料	71
参考資料-1 みどり市地域公共交通活性化協議会 委員名簿.....	72

第1章 計画の概要



1-1 計画策定の背景・目的

持続可能な運送サービスの提供を確保するため、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が2020年（令和2年）11月に施行され、地方公共団体には地域公共交通計画の策定が努力義務化されました。

本市では、人口減少や少子高齢化の進行に加え、ライフスタイルの変化などにより公共交通の利用者が減少しています。さらに、日常生活や通勤・通学の移動を支えるとともに、本市の特徴でもある4つの鉄道においても利用者が減少しているのが現状です。

こうした背景を踏まえ、「みどり市地域公共交通計画（以下、「本計画」とする）」を策定し、計画に沿った取り組みを進めることで、地域のまちづくりに活かすとともに、公共交通の利用促進を図ります。

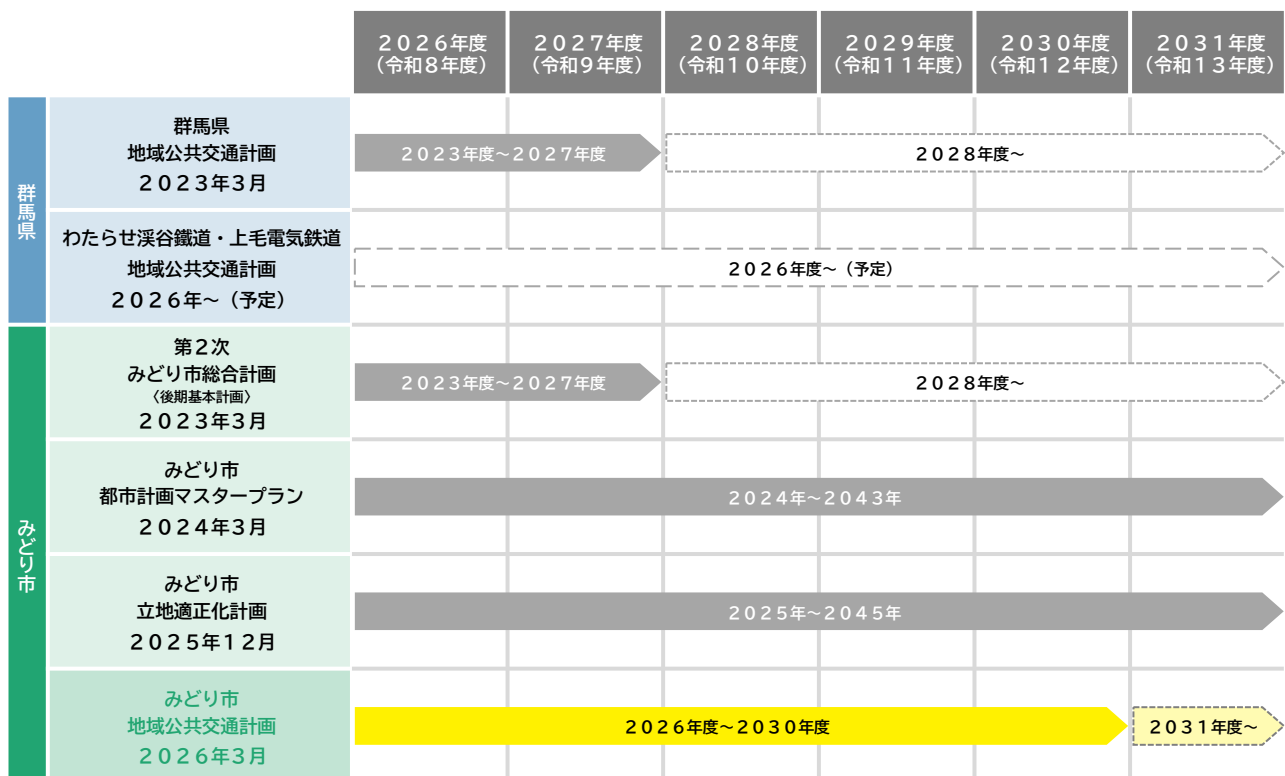
1-2 計画の区域

本計画の対象は、みどり市全域とします。

1-3 計画の期間

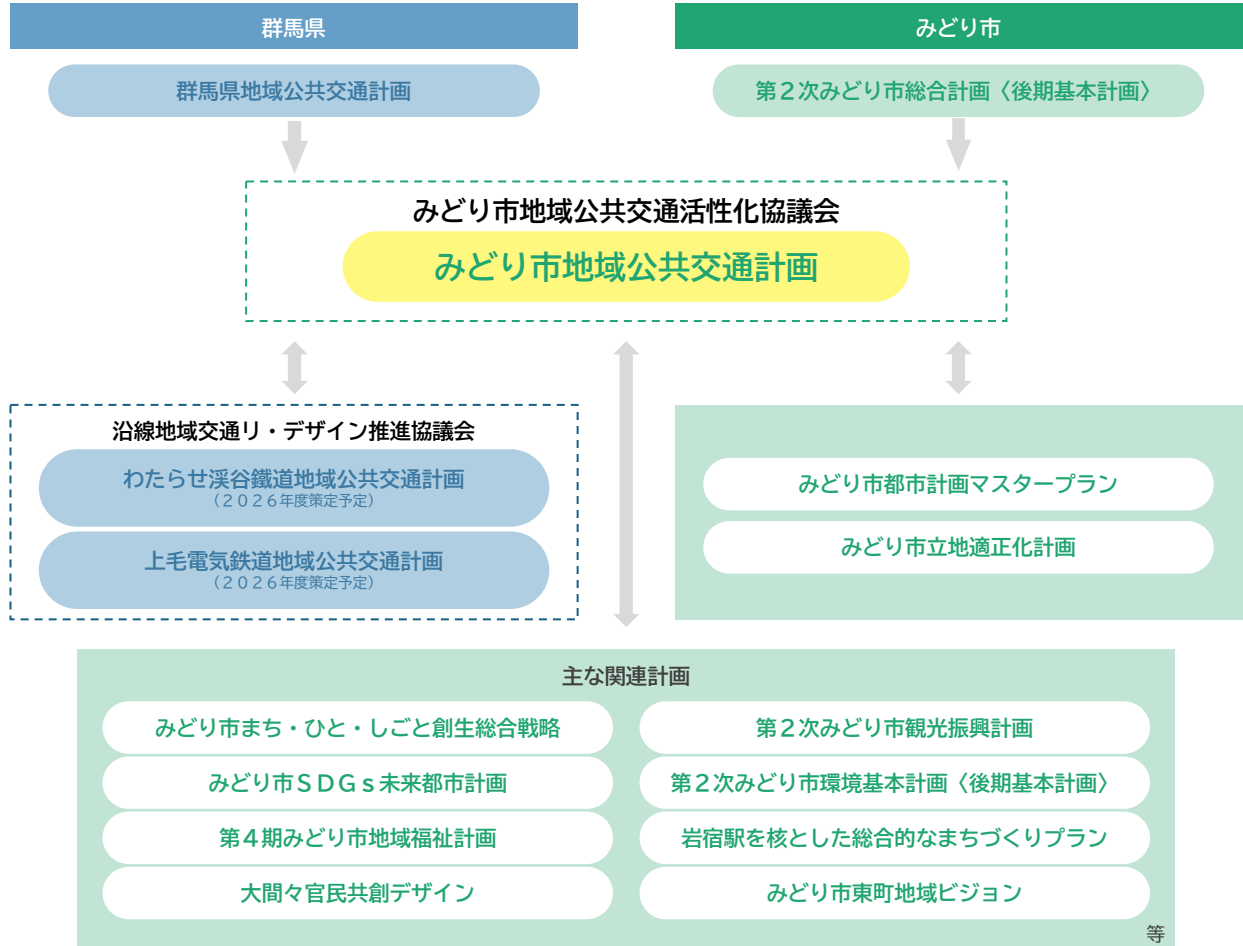
本計画の計画期間は、2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5年間とします。

地域公共交通を取り巻く環境の変化に応じて、随時見直しを行います。



1-4 本計画と各種計画等の関係

本計画は、本市の最上位計画である「第2次みどり市総合計画」および「群馬県地域公共交通計画（群馬県交通まちづくり戦略）」を上位計画として位置づけています。あわせて、本市の各種関連計画との整合を図り、相互に連携しながら推進します。



(1) 群馬県の主な計画

① 群馬県地域公共交通計画（群馬県交通まちづくり戦略）

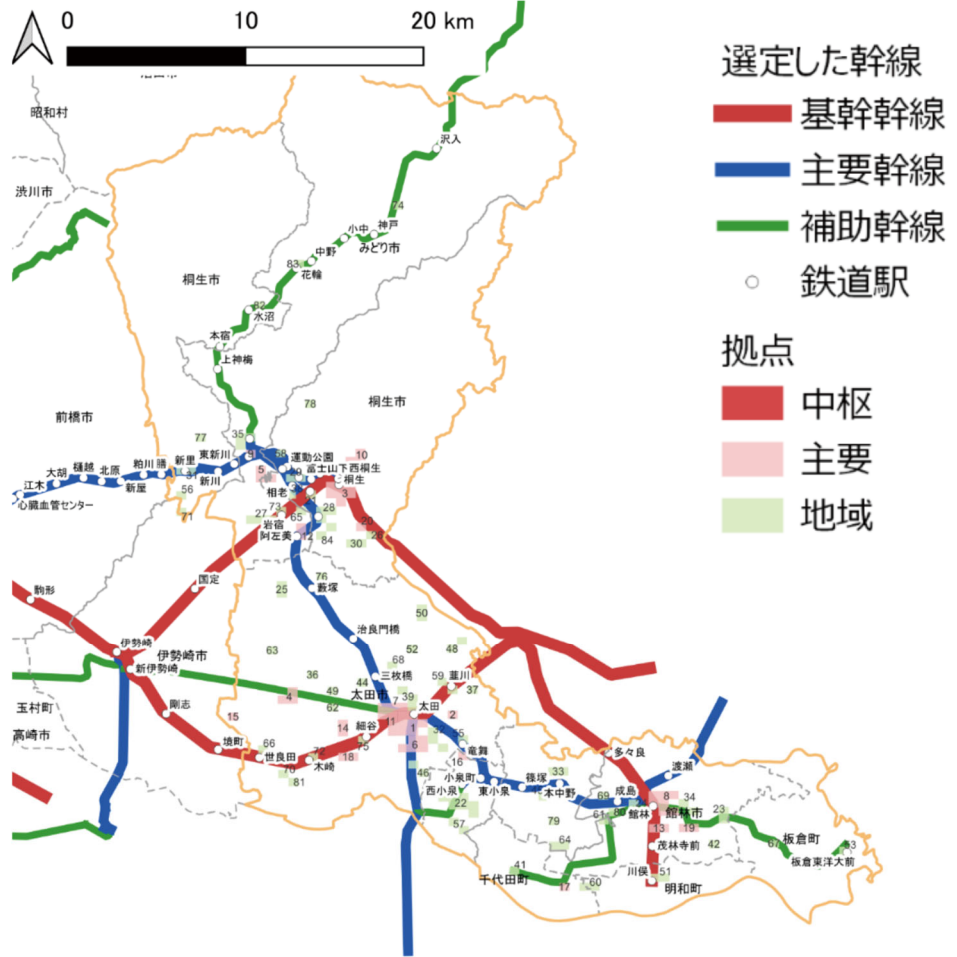
概要	20年後（2042年）の目指すべき将来像の実現に向け、まちづくりと連携した公共交通のあるべき姿を描き、公共交通とまちづくり、それぞれが担うべき役割や取り組みの方向性を明らかにする計画。	
策定年	●2023年（令和5年）3月	
計画期間	●2023年度（令和5年度）～2027年（令和9年度）	
目指すべき将来像	●ぐんまらしい「快疎」な空間の形成とそれを支える多様な移動手段が整った社会～多様なライフスタイルに合わせて、誰もが安全・快適に移動でき、 良好な社会環境のもとで持続的に暮らせる群馬県～	
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ●ニューノーマルにも対応した安全・快適で持続可能な公共交通サービスの確保・維持 ●DX・新技術導入による公共交通サービスの効率化・高度化 ●交通まちづくり分野の脱炭素化の推進 ●まちづくりと連携した基幹公共交通軸の確保・維持（市町村域を越える広域的な公共交通） ●まちづくりと連携した地域的な暮らしの足の確保・維持（市町村内における多様な移動手段） 	
東毛広域圏の公共交通に関する記載	公共交通の取組方針（都市部）	<ul style="list-style-type: none"> ●軸となる幹線バスの配置と利用しやすい運行サービス（運行本数）の提供 ●鉄道、バス、その他さまざまな移動手段相互の連携、利便性の向上 ●交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ●災害リスクを抱えた都市部市街地におけるモビリティ確保
	公共交通の取組方針（郊外部）	<ul style="list-style-type: none"> ●定常的な利用者、交通弱者、来街者にとって利用しやすい交通手段の検討 ●一体的な生活圏の形成に対応した、中心市と郊外を結ぶバスサービス、もしくはそれに変わる運行サービスの提供 ●交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ●災害リスクを抱えた郊外部市街地におけるモビリティ確保
	公共交通の取組方針（中山間地域）	<ul style="list-style-type: none"> ●交通弱者を対象とした、生活の質の確保につながる適切な移動手段の検討・導入 ●定常的な利用者、交通弱者、来街者にとって利用しやすい交通手段の検討

幹線
ネットワーク
設定の
ポイント

- 前橋・高崎を核とした、放射状のネットワークを構築
(高次の都市機能を有する前橋・高崎へのアクセスは将来的にも重要)
- 移動需要を踏まえて、先に設定した拠点を効率的にカバーできる路線を選定
- 市町村の中心的機能を有する市町村役場(一部支所を含む)を結ぶ路線を選定
- 県外からの需要の多い観光地への路線を選定

公共交通に関する記載

幹線設定図



② 上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道「リ・デザイン推進協議会」

群馬県では、中小私鉄3社（上毛電気鉄道・上信電鉄・わたらせ渓谷鐵道）が運行する地域鉄道について、利用者の視点に立った今後のあり方を議論し、沿線地域交通全体の最適化及び長期的な交通サービスの安定化を実現する方策を検討するため、「群馬県地域鉄道のあり方検討会」を設置し、協議を進めてきました。

上記を踏まえ、群馬県では本市に係る「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」において、沿線地域交通の再構築や、沿線地域における交通計画の策定などを目的として、令和5年度から「上毛電気鉄道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」「わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」を設立し、沿線自治体である本市を含めた関係者と協議を重ねてきました。

両鉄道においては、バスへの転換を含めた検討を重ねた結果、全線鉄道として存続させることとして、今後のあり方に関する基本方針を取りまとめました。今後は、この基本方針に基づき、沿線地域の価値を最大化するための具体的な取り組みや、群馬県及び沿線市が策定主体となる沿線地域の交通計画の策定（2026年度策定予定）に向けて、引き続き関係者と協議を重ねていくこととしています。

(2) みどり市の主な計画

① 第2次みどり市総合計画 〈後期基本計画〉

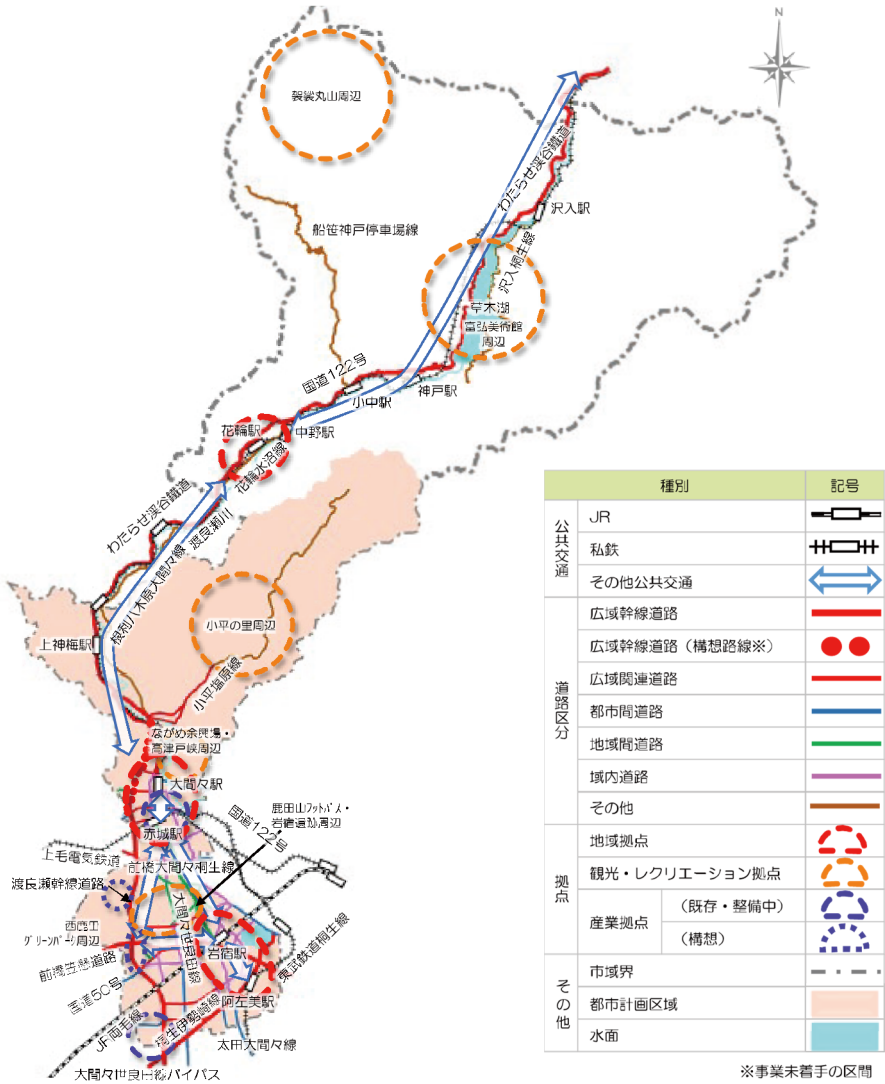
概要	みどり市の最上位計画であり、将来像を「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」とし、時代の変化を踏まえつつ、前期計画における成果や課題を再点検し、第2次みどり市総合計画の総仕上げとして、後半部分にあたる5年間の取り組みを明らかにする計画。	
策定年	●2023年(令和5年)3月	
計画期間	●2023年度(令和5年度)～2027年(令和9年度)	
まちづくりの理念	<ul style="list-style-type: none"> ●人が生きることと豊かな自然が共生するみどり市をつくります 【人と自然の共生】 ●人の活動とまちに資源が織りなす豊かさづくりに取り組みます 【地域資源の活用】 ●人とひとが助け合い、協働してまちづくりに取り組みます 【助け合いと協働】 	
将来像	●輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市	
基本戦略	<ul style="list-style-type: none"> ●人が輝くまちづくり ●安全で快適なまちづくり ●活力あふれるまちづくり ●自立と協働のまちづくり 	
公共交通に関する記載	めざす姿	公共交通の利便性が高まるとともに、交通弱者の交通手段が確保されます。
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の伸び悩み・交通弱者の増加 ・ 運転免許返納の増加 ・ バス利用者の伸び悩み ・ 鉄道利用者の減少
	方針	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利便性を高め、移動に困らない生活を目指します。 ・ バスの効率的な運行 ・ 鉄道の安定的な運行 ・ 岩宿駅の整備
	主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●バスの運行形態の変更による交通結節点の強化 ●交通弱者・過疎地域に対する支援拡充

② みどり市都市計画マスタープラン

<p>概要</p>	<p>みどり市の都市計画に関する基本的な方針として、まちづくりの観点から、みどり市が抱える課題を把握し、今後のまちづくりの方向を見据えて、必要な社会資本の整備について戦略的かつ計画的に取り組むための計画。</p>																																								
<p>策定年</p>	<p>● 2024年（令和6年）3月</p>																																								
<p>計画期間</p>	<p>● 2024年（令和6年）～2043年（令和25年）</p>																																								
<p>まちづくりの理念</p>	<p>● 豊かな自然と多様な特性を生かし、人々が心豊かに生活できるまちづくりの実現</p>																																								
<p>将来都市像</p>	<p>● 輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市（総合計画を踏襲）</p>																																								
<p>将来都市構造 （拠点）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域拠点（地域住民の生活と地域の発展を支える中心として、商業、行政サービスをはじめとする多様な都市機能の充実を図る） ・ 笠懸地域拠点（岩宿駅・阿左美駅周辺）、大間々地域拠点（赤城駅・大間々駅周辺）、東地域拠点（花輪駅周辺） ● 観光・レクリエーション拠点（自然資源や歴史資源を守りながら、交流人口の増加にも配慮し、観光やレクリエーションの場として適正かつ積極的に活用していく） ・ 岩宿遺跡、西鹿田グリーンパーク・鹿田山フットパス、ながめ余興場・高津戸峡、小平の里、富弘美術館、袈裟丸山 																																								
<p>将来都市構造 （都市軸）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心軸（拠点間同士を結び、みどり市と周辺都市との連携の強化を図る） ・ わたらせ渓谷鐵道 ● 地域間交通軸（地域の連携をバス等の公共交通ネットワークで補うことにより、機能強化を図る） ・ 大間々地域から東地域を經由し日光市まで結ぶライン ・ 鉄道が連携していない大間々地域と笠懸地域を結ぶライン 																																								
<p>将来都市像</p>	 <table border="1" data-bbox="1107 1597 1375 2065"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地利用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市街地・農地共生利用</td> <td>■</td> </tr> <tr> <td>自然環境・交流利用</td> <td>■</td> </tr> <tr> <td>拠点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域拠点</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>観光・レクリエーション拠点</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>産業拠点</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>（既存・整備中）</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>（構想）</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>都市軸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中心軸</td> <td>⇄</td> </tr> <tr> <td>広域交流軸</td> <td>⇄</td> </tr> <tr> <td>地域間交通軸</td> <td>⇄</td> </tr> <tr> <td>主要道路</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>構想路線</td> <td>- - -</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市域界</td> <td>- · - · -</td> </tr> <tr> <td>都市計画区域</td> <td>- · - · -</td> </tr> <tr> <td>水面</td> <td>■</td> </tr> </tbody> </table>	種別	記号	土地利用		市街地・農地共生利用	■	自然環境・交流利用	■	拠点		地域拠点	○	観光・レクリエーション拠点	○	産業拠点	○	（既存・整備中）	○	（構想）	○	都市軸		中心軸	⇄	広域交流軸	⇄	地域間交通軸	⇄	主要道路	—	構想路線	- - -	その他		市域界	- · - · -	都市計画区域	- · - · -	水面	■
種別	記号																																								
土地利用																																									
市街地・農地共生利用	■																																								
自然環境・交流利用	■																																								
拠点																																									
地域拠点	○																																								
観光・レクリエーション拠点	○																																								
産業拠点	○																																								
（既存・整備中）	○																																								
（構想）	○																																								
都市軸																																									
中心軸	⇄																																								
広域交流軸	⇄																																								
地域間交通軸	⇄																																								
主要道路	—																																								
構想路線	- - -																																								
その他																																									
市域界	- · - · -																																								
都市計画区域	- · - · -																																								
水面	■																																								

方針	●地域の連携強化と市民生活に適した交通ネットワークの形成
施策	●すべての人が使いやすい公共交通にする
取組	<ul style="list-style-type: none"> ●「みどり市地域公共交通計画」の策定等による計画的な交通ネットワークの構築 ●バスと鉄道の連携強化による公共交通を利用しやすい環境づくりの推進 ●すべての利用者に優しい駅舎や車両等の整備促進 ●市民の利便性向上に向けた、地域の実情に合ったバス運行の推進 ●歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた効果的・効率的な運行の推進 ●利用者の拡大や利便性・効率性を高める新しい移動サービス等を導入した公共交通体系の整備推進 ●鉄道駅周辺整備による鉄道利用者等の利便性向上の推進 ●公共交通網の充実化に向けた施設整備を関係機関に要請
将来イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●使いやすい公共交通 ・公共交通機関や多様な交通手段を活用し、いつでも誰でもどこへでも自由に移動ができる ・運転免許証を返納しても、鉄道やバスで気軽に外出し買い物や通院ができる

整備方針図



③ みどり市立地適正化計画

<p>概要</p>	<p>「みどり市都市計画マスタープラン」の将来像の実現に向け、生活サービスへのアクセスを確保しながら一定のエリアにおいて人口密度を維持していく「まちのまとまり」の維持・形成や「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を図り、都市構造の再編を行うための計画。</p>	
<p>策定年</p>	<p>● 2025年（令和7年）12月</p>	
<p>計画期間</p>	<p>● 2025年（令和7年）～2045年（令和27年）</p>	
<p>居住誘導区域 都市機能誘導区域</p>		
<p>公共交通に関する記載</p>	<p>まちづくりの方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩いて暮らせるまちにする ・ 公共交通の利便性が高く既存施設が集積している地区や鉄道駅周辺では、市民の暮らしを支える施設の充実と道路などの都市基盤の整備を進めることにより、市民が歩いて暮らせるコンパクトな市街地の形成を目指します。
	<p>誘導方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての人が使いやすい公共交通の維持・確保 ・ 高齢化の進行により自家用車での移動が困難な人が増えていくことから、拠点間を有機的に結び、誰もが使いやすく、移動しやすい公共交通ネットワークの維持・確保に努め、高齢者や障がい者などの利用にも配慮した鉄道駅等の交通結節機能の強化を図り、まちのまとまり等へのアクセス性の向上を図ります。
	<p>誘導施策の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域拠点の核となる鉄道駅周辺の交通結節機能や歩行環境の改善、バスと鉄道の連携強化などにより、拠点間や周辺都市をつなぐ誰もが使いやすく、移動しやすい公共交通ネットワークの維持・確保に努めます。 ● 高齢者や障がい者にも配慮したすべての人が使いやすい駅周辺環境の整備を推進し、鉄道利用者等の利便性向上を図ります。
	<p>誘導施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● みどり市地域公共交通計画の策定 ● 駅周辺の交通結節機能や歩行環境の改善 ● バスと鉄道の連携強化による利用しやすい環境づくりの推進 ● 拠点間や周辺都市をつなぐ公共交通ネットワークの構築 ● 歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた効果的・効率的な運行の検討 ● 鉄道駅周辺整備による鉄道利用者等の利便性向上の推進

第2章 みどり市における公共交通の課題



2-1 みどり市地域公共交通の課題（テーマ）の整理

既存データ、アンケート調査結果、事業者ヒアリング結果、近年の社会情勢などを踏まえ、本市における公共交通に関する問題点を整理し、「利用者」「持続可能性（公共交通のあり方）」の視点から課題（テーマ）を設定しました。

利用者

テーマ1 視点：市民
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築

テーマ2 視点：高校生
市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保

テーマ3 視点：高齢者
高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編

テーマ4 視点：観光客
鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築

テーマ5 視点：安心・安全 / 魅力向上・発信 / 収入確保
市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供

テーマ6 視点：意識醸成 / 連携強化
地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化

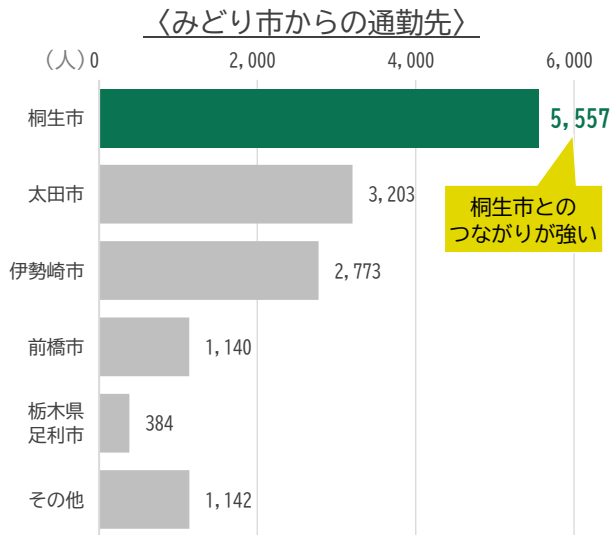
テーマ7 視点：最適化 / 支出抑制 / DX・新技術
笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

—— 持続可能性（公共交通のあり方） ——

多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築

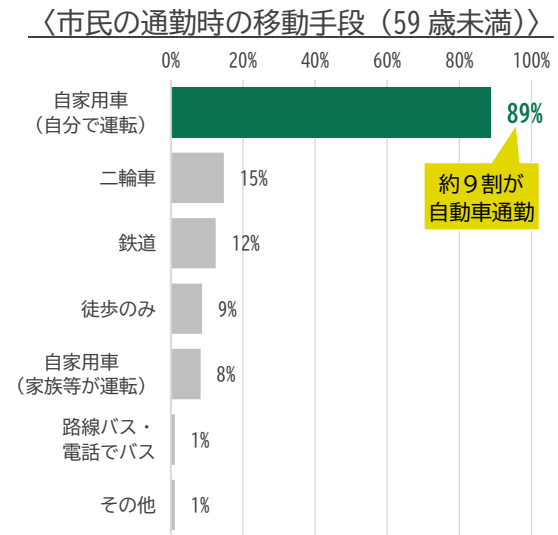
- 市民の通勤を含め、幅広い年代で自動車利用が多く、特にみどり市北部では「自分で運転する」ため公共交通を利用しない傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

●市民の通勤の状況



資料：令和2年国勢調査

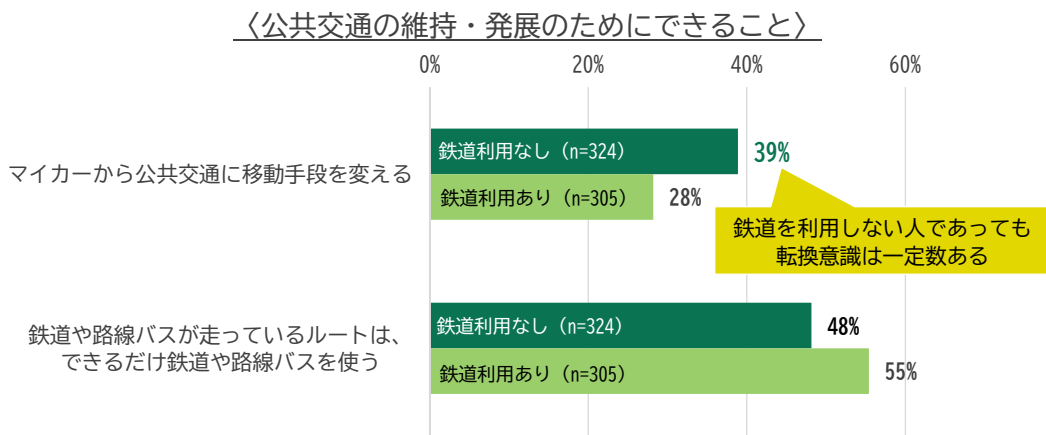
●自動車通勤率の高さ



資料：一般アンケート調査結果 (複数回答)

- マイカーから公共交通への転換意識は高いものの、実際に公共交通を利用している人は少ない状況となっている。

●マイカーから公共交通への転換意識は一定数ある



資料：一般アンケート調査結果

※「鉄道利用あり」は、「週に5日以上利用～年に数回程度利用」と回答した人を対象としている

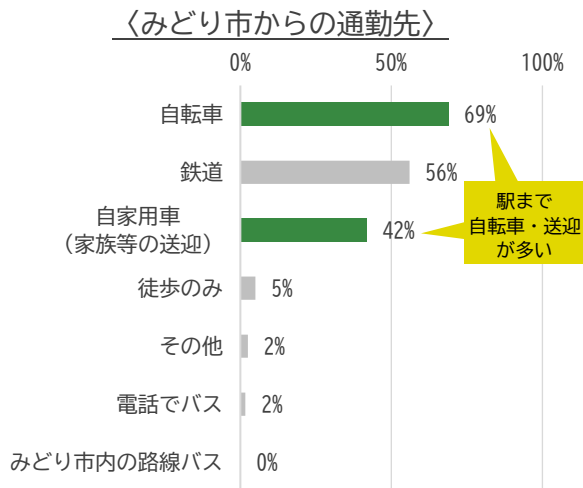
テーマ
2

視点：高校生

市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保

- ・ 市外へ通学する生徒は路線バスを利用できておらず、駅へのアクセス手段として自転車や保護者の送迎に頼らざるを得ない状況であり、交通事故のリスクや交通渋滞が発生、保護者への負担の増加が懸念される。
- ・ 高校生が多く住む笠懸町の南西地域では、路線バスが整備されておらず、駅までの手段が限られている。

● 駅・学校までは自転車・送迎で移動



● 路線バス・駅整備の必要性

〈高校生の声 (抜粋)〉

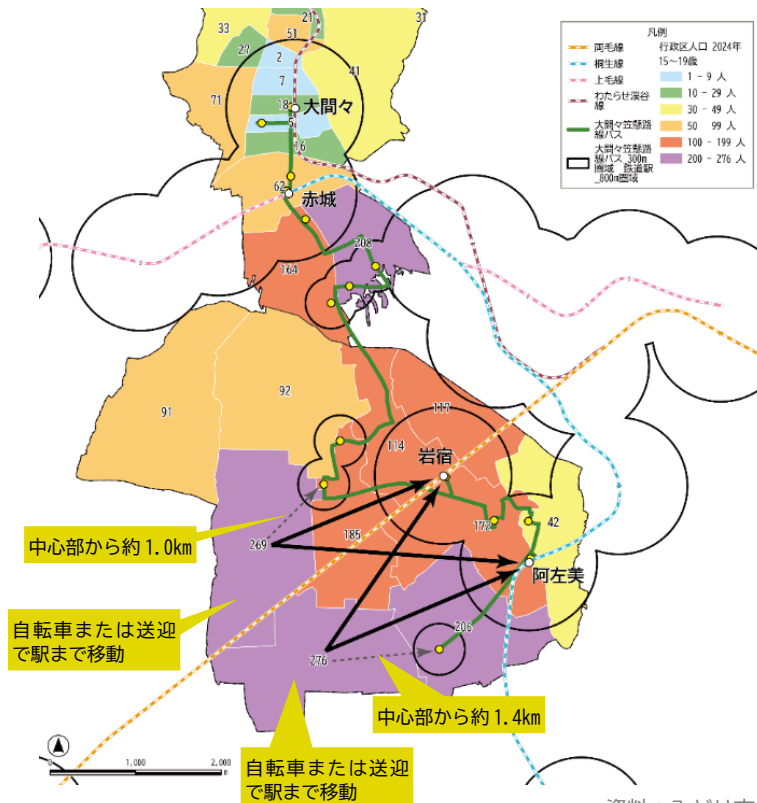
- ・ 市役所から岩宿駅までのバスを通学に利用したいが、通学時間帯には運行しておらず、不便を感じている。
- ・ 自宅近くにバス停がなく、便数も少ないため利用したい時間に運行していない。高校生が通学に利用しやすいよう、バス停の増設と運行時間の改善を求める。
- ・ 岩宿駅への登校時に自転車を利用しているが、車で送迎する保護者の車両と接触する可能性があり、危険を感じているため、状況の改善を求める。

資料：高校生アンケート調査結果（自由意見）

資料：高校生アンケート調査

● 笠懸町の南西地域の高校生の通学手段は駅までの移動を自転車か送迎に依存

〈鉄道駅から 800m、大間々・笠懸路線バス停から 300m の範囲〉



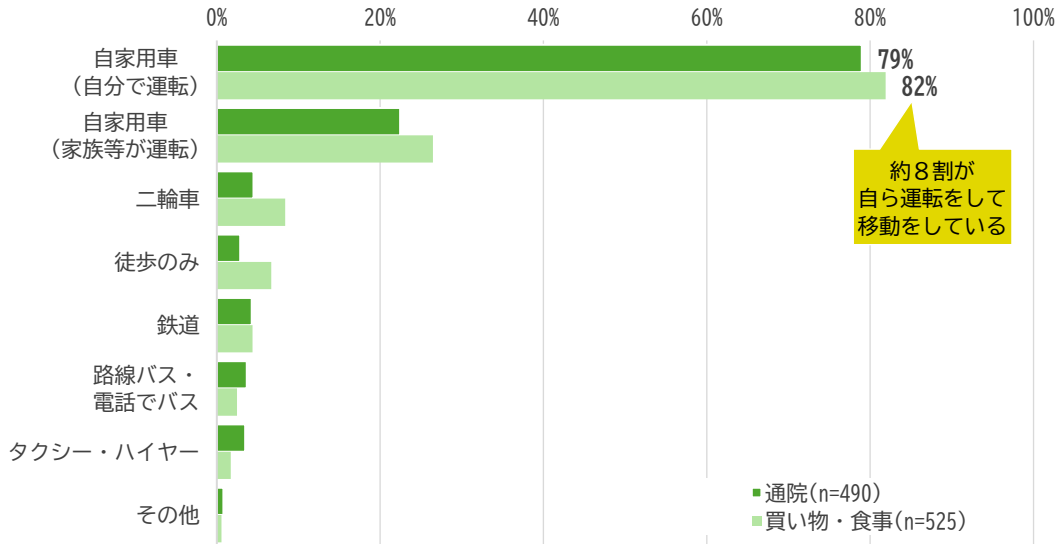
資料：みどり市、高校生アンケート調査結果

高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編

- ・ 商業施設や医療施設への移動需要は高いものの、鉄道や路線バスの利用は進んでおらず、利便性の高いサービスが提供できていない。

●自動車利用率の高さ

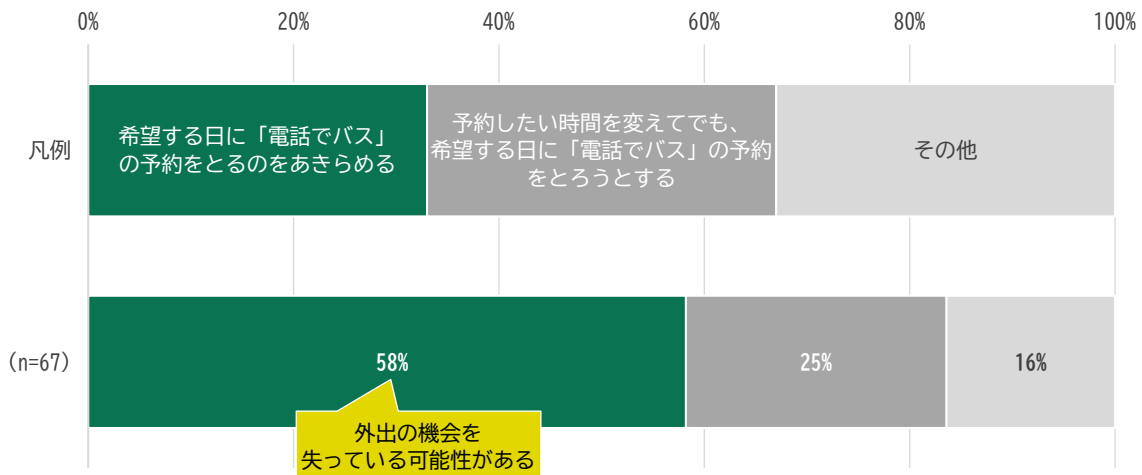
〈市民の通院、買い物・食事時の移動手段（60歳以上）〉



- ・ 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」が運行しているが、予約が取りづらい状況が続いており、本来必要としている人が予約を取れずに諦めてしまい、結果として外出の機会を失っていると考えられる。

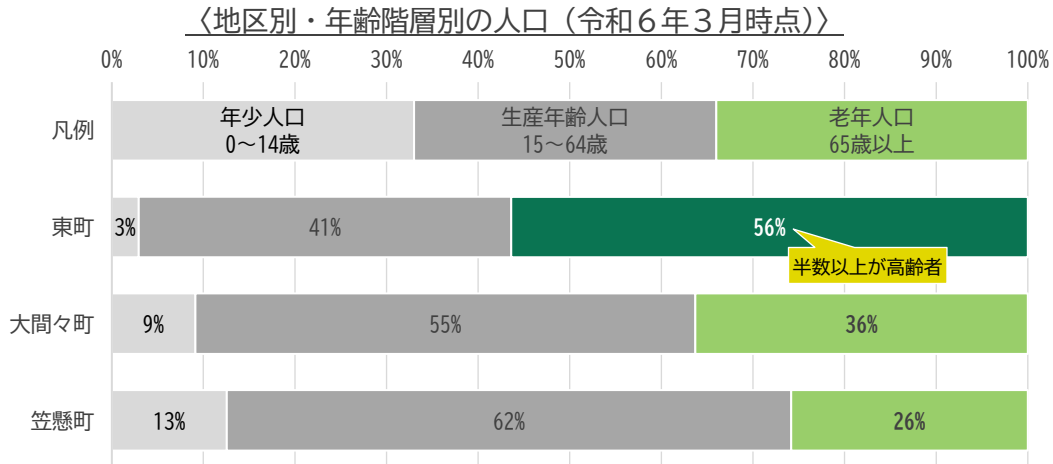
●予約が取れないときに利用をあきらめる傾向

〈「電話でバス」の予約が取れないときの対応〉



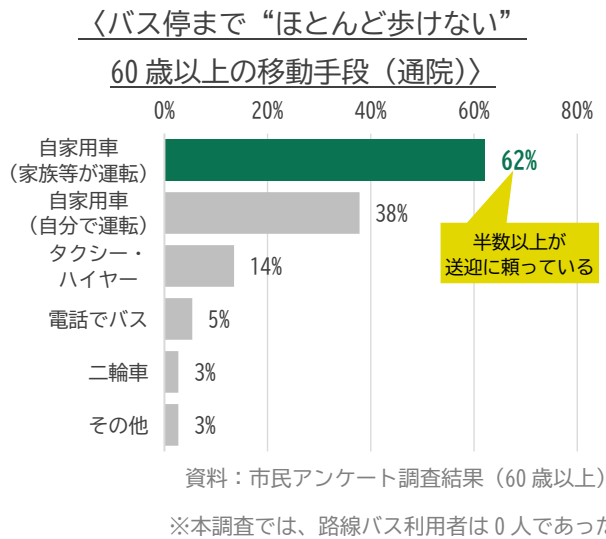
- ・ 少子高齢化が特に進行している東町では、NPO による移動サービスに対するニーズが一層高まることが予想される一方で、運転手不足により持続可能な運行が困難になる懸念がある。

●東町の高齢化率の高さ



- ・ 駅やバス停までの徒歩移動が困難な高齢者は、自家用車に依存する傾向が強く、公共交通の利用につながっていない。

●バス停までの移動が困難



〈高齢者の声（抜粋）〉

- ・ 停留所へ行くまで大変。
- ・ 自宅での乗り降りが可能にならないか。
- ・ 「電話でバス」を利用してみたいが、バス停が遠すぎる。
- ・ バス停まで300m~400mも歩くのは大変。
- ・ バス停まで自宅から約1kmあり、移動が大変だと感じている。

資料：市民アンケート結果（60歳以上）

- ・ 現在、公共交通を利用していない市民であっても、免許返納後の生活に対する不安を抱えている。

●免許返納後の不安

〈市民の声（抜粋）〉

- ・ 現在は車を運転できるためバスの利用に困っていないが、将来的に免許を返納した際には、買い物・通院・駅への移動手段としてバスが使えると非常に助かると感じている。
- ・ 現在は自家用車で移動できるため不便は感じていないが、将来的に免許証を返納した場合、交通手段が限られ不便になることが予想される。
- ・ 現在は免許と車があるため不便は感じていないが、将来的に高齢になって公共交通を利用する機会が増えることを考えると、利便性の高い交通環境を期待している。
- ・ 将来的に自分も免許を返納する可能性があり、その際はバスを利用することになると思う。公共交通は多くの人が利用しないと維持できないことを改めて実感した。

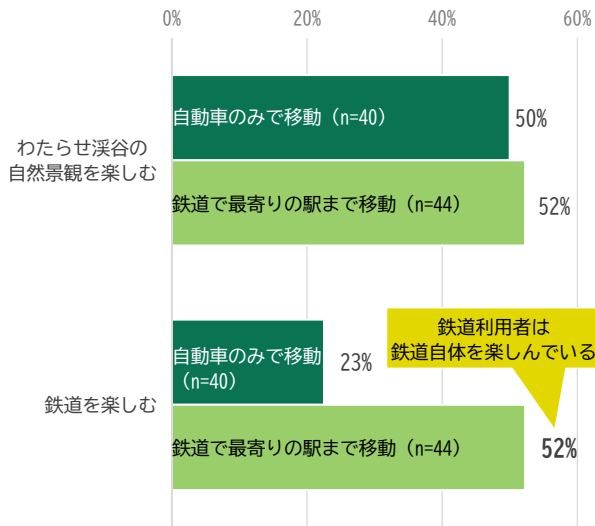
資料：一般アンケート調査結果（自由意見）

鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築

・ 「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、遠方からの来訪者は鉄道を利用するケースが多い一方で、近距離からの来訪者は自家用車を利用する傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

● 「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる

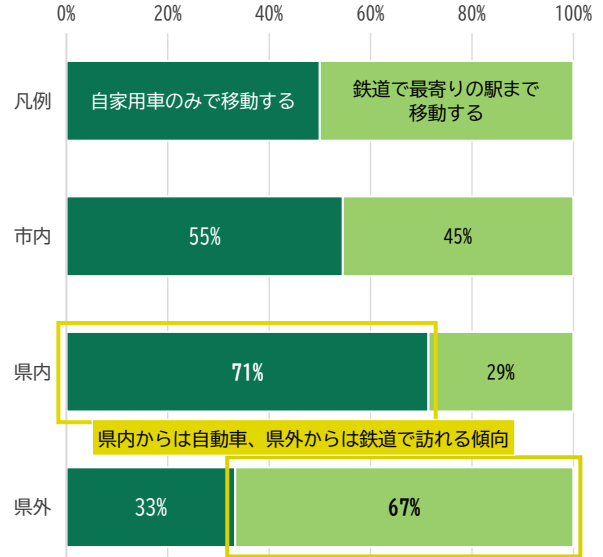
〈みどり市を訪れる理由〉



資料：来訪者アンケート調査結果

● 遠方からは鉄道、近隣からは自動車で来訪

〈出発地からみどり市を訪れる手段〉

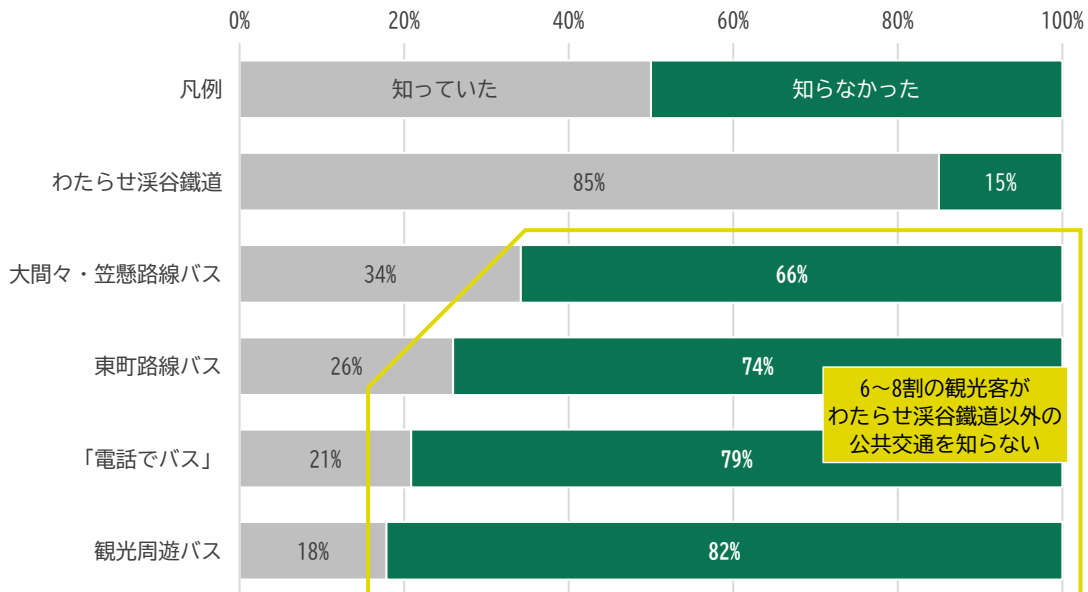


資料：来訪者アンケート調査結果

・ 「自然景観・鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、みどり市の公共交通が十分に周知されておらず、みどり市の景観や鉄道のポテンシャルを最大限に活かしてきていない。

● わたらせ渓谷鉄道以外を知らない観光客

〈みどり市の公共交通を知っているか〉

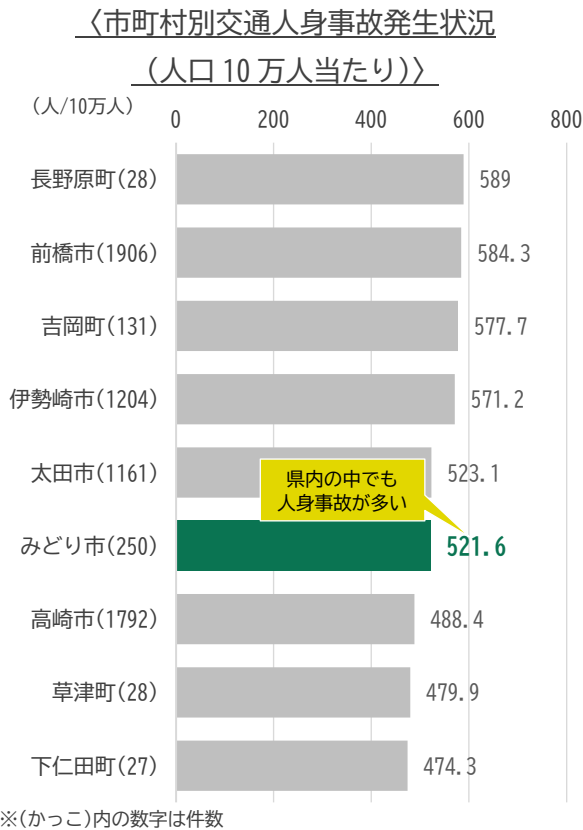


資料：来訪者アンケート調査

市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供

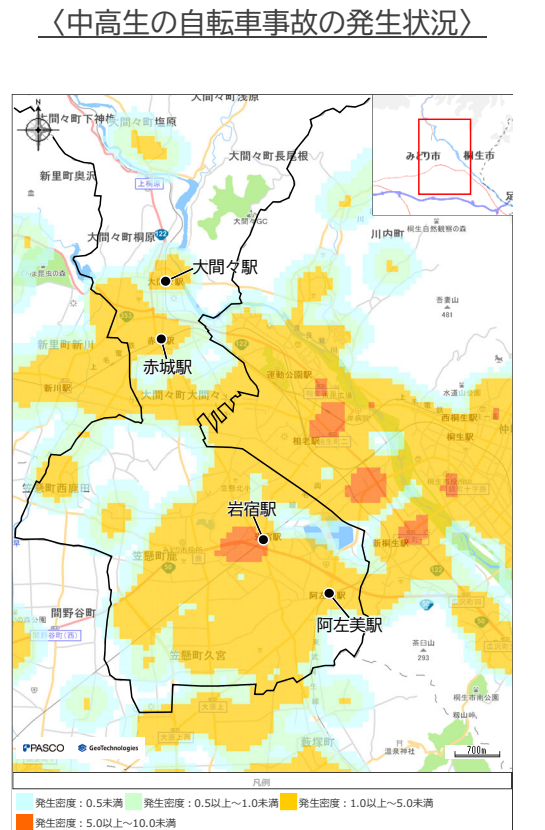
- ・ 人口 10 万人当たりの人身交通事故発生状況は、県内ワースト 6 位に位置し、近隣の伊勢崎市や太田市を含め、人身事故の発生率が高い傾向が見られる。
- ・ 中高生の自転車事故は岩宿駅周辺で発生率が高く、今後も自転車事故の発生が懸念される。

● 県内ワースト 6 位の事故の多さ



資料：群馬県警察 HP (令和 6 年)

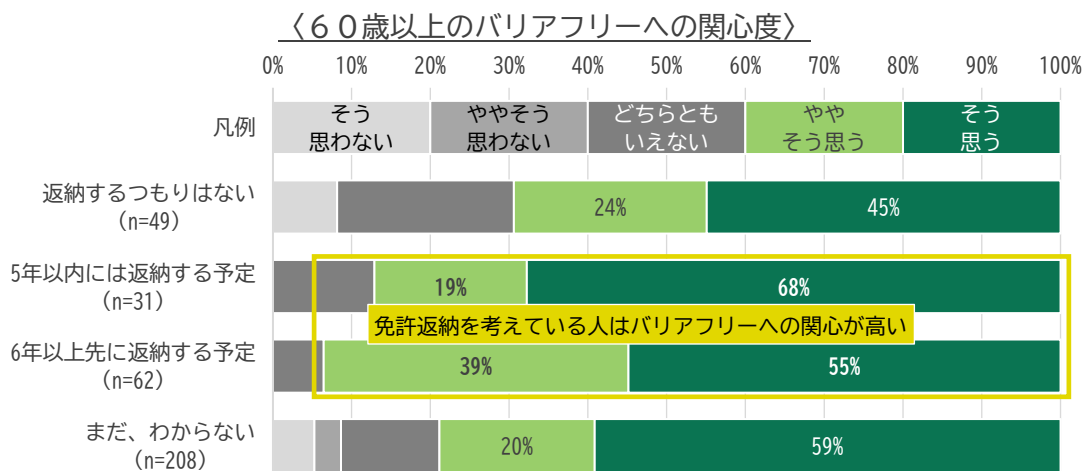
● 岩宿駅周辺での自転車事故の多さ



資料：マッピング群馬 (一部加筆)

- ・ 60 歳以上で、今後 5 年以内に免許の返納を検討している方は、バリアフリー化への関心が高い傾向にあるが、現状では一部の公共交通にしかバリアフリー化に対応しておらず、利用環境の整備が十分とはいえない。

● 免許返納の予定者のバリアフリーへの関心の高さ

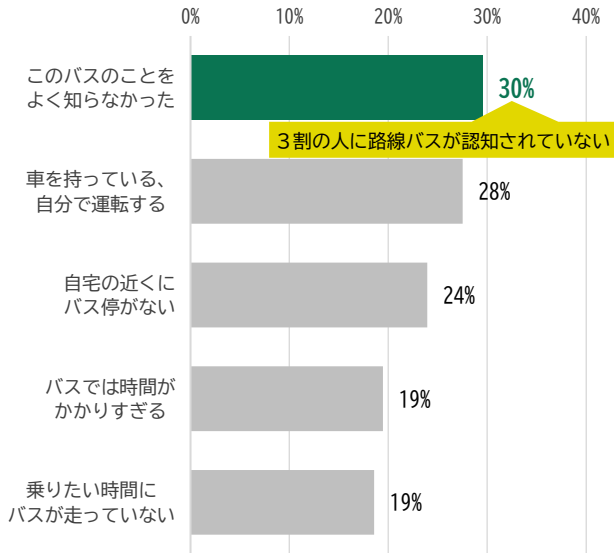


資料：一般アンケート調査結果

- ・ 路線バスが運行されている地域であっても、情報不足や周知活動の不足により、その存在が十分に認識されず、利用意識の醸成が進んでいない。

● **路線バスを知らない市民**

〈大間々・笠懸路線バスを利用できるが
利用していない理由（上位5つ）〉



資料：市民アンケート調査結果

● **周知・PRの不足**

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

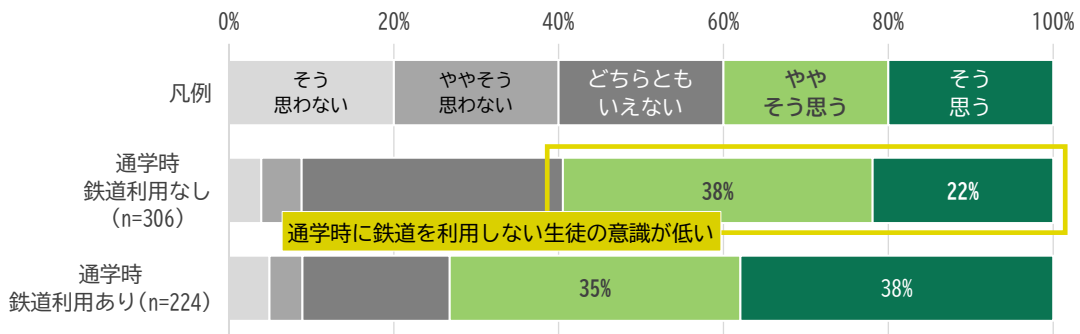
- ・ 公共交通について詳しく知らない人が多く、市としてもっと周知・PRすべきだと考える。
- ・ みどり市のバスがここまで発展していることを知らなかった。若い世代にももっと周知されるよう、SNSやアプリの活用によって変化が期待できると感じた。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

- ・ 鉄道を利用しない高校生には鉄道の魅力が十分に伝わっておらず、今後の公共交通の利用促進を妨げる要因となっている。

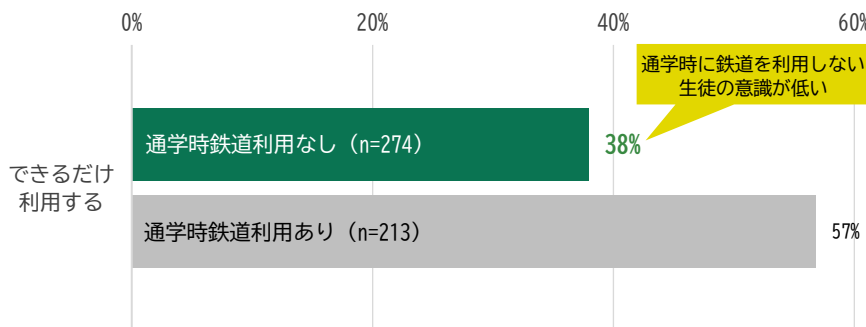
● **通学時に鉄道を利用していない生徒の公共交通への意識の低さ**

〈4つの鉄道路線は、まちの発展にとって欠かせないと思うか〉



資料：高校生アンケート調査結果

〈公共交通の維持・発展のため、できるだけ公共交通を利用しようと思うか〉



資料：高校生アンケート調査結果

地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化

- 市民の多くが自家用車を移動手段として利用していることに伴い、交通渋滞の増加や環境負荷の深刻化が懸念される。

● 渋滞問題に対する意識

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

- 岩宿駅前の道路は朝夕の交通量が多く混雑しており、駅周辺が非常に混み合っているため、道路を広げて交通をスムーズにしてほしい。
- 岩宿駅前のロータリーが狭く、特に北口は利用しづらいため、朝の時間帯には交通が集中し、混雑している。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

● 環境問題等に対する意識

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

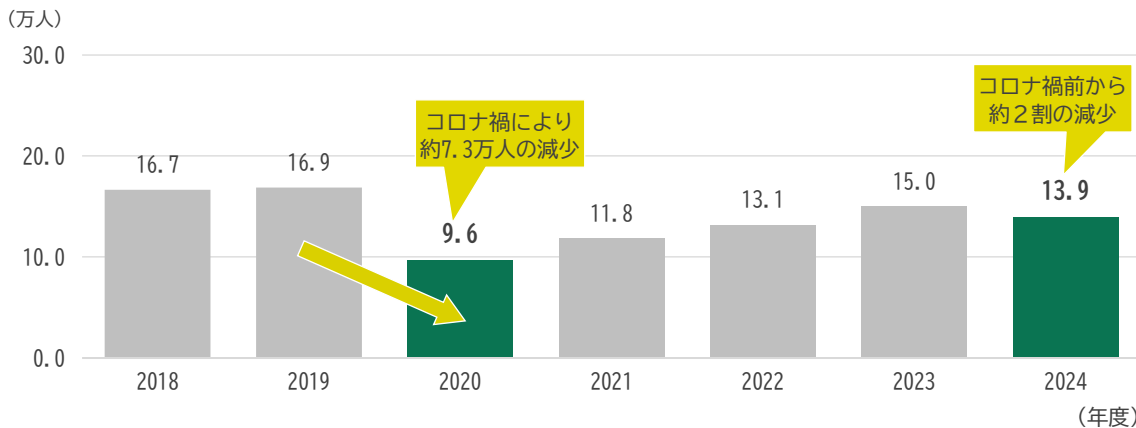
- CO₂排出量の抑制のため、公共交通の拡充が必要。
- 公共交通の利便性が高まれば、高齢者が安心して免許を返納しやすくなり、交通事故の減少にもつながる可能性がある。
- 公共交通の利便性が向上すれば、車を運転できない若者も自由に移動できるようになり、地域の活性化につながる。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

- 鉄道、路線バス、「電話でバス」、タクシーは、コロナ禍の影響で利用者が減少し、一事業者単独での取り組みだけでは利用者の確保が困難になっている。

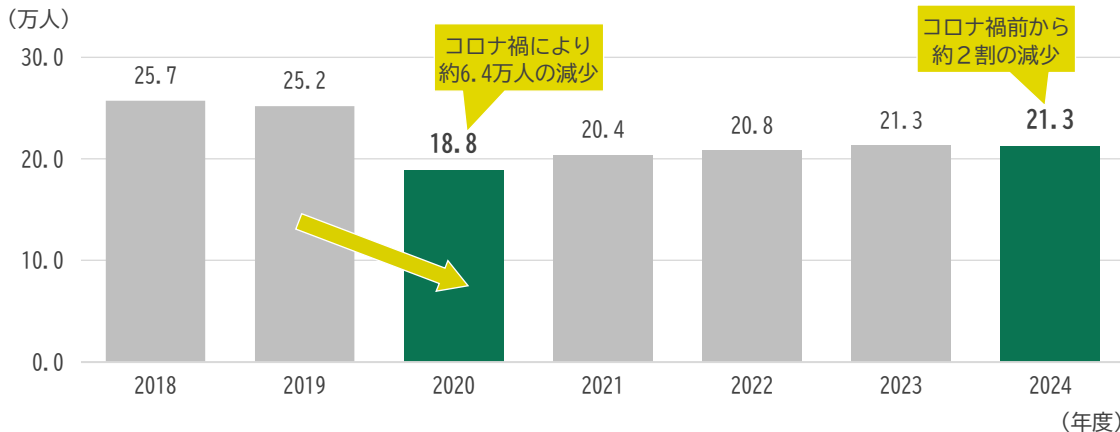
● 鉄道利用者数の減少

〈大間々駅（わたらせ渓谷鐵道）の利用者数〉



資料：わたらせ渓谷鐵道(株)

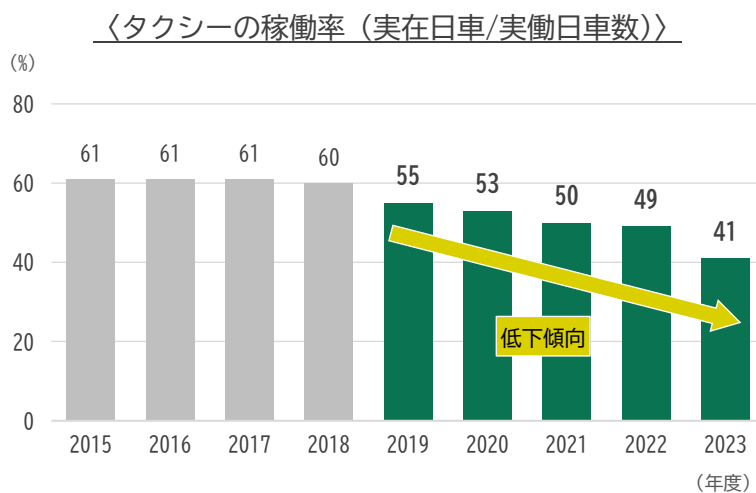
〈赤城駅（上毛電気鐵道）の利用者数〉



資料：上毛電気鐵道(株)

- ・ タクシーをはじめとした交通事業者の人員不足により、今後のサービス水準の低下が懸念される。

● 運転手不足による稼働率の低下



資料：(株) 沼田屋タクシー

● 運転手不足に対する意識

〈事業者ヒアリング結果〉

- ・ 車両はあるが、運転手の高齢化が進み、若年層の担い手が少ないため、人材確保が課題となっている。

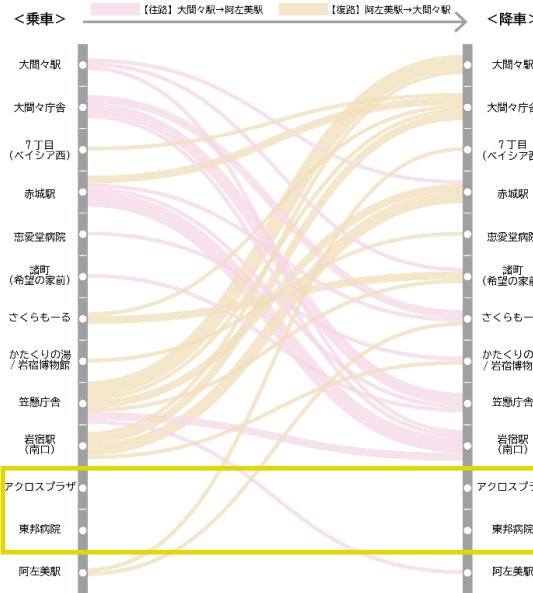
資料：(株) 沼田屋タクシー

笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

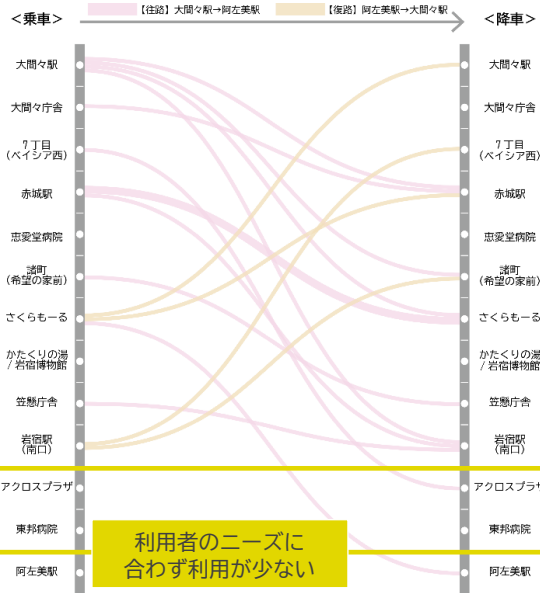
- ・ 利用実態のない路線・バス停が存在しており、利用者のニーズに応じたサービスの提供が提供できておらず、非効率な運行となっている。

●大間々・笠懸路線バスの利用実態のないバス停の存在

〈平日（調査日：2025年1月24日(金)）〉



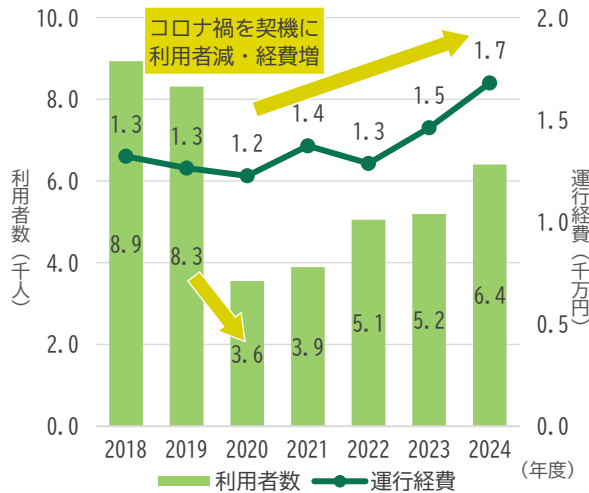
〈休日（調査日：2025年1月26日(日)）〉



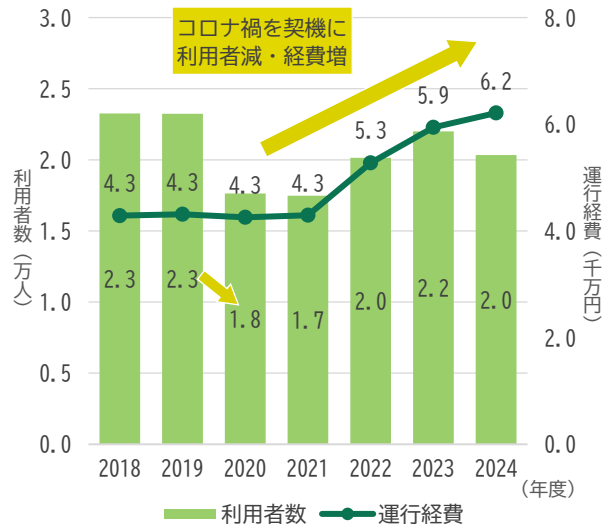
- ・ 東町路線バスや「電話でバス」では、運行経費の増加や利用者が減少しており、サービス水準の低下・持続可能な運行が困難になることが懸念される。

●利用者数の減少・運行経費の増加

〈東町路線バス（全路線）の
利用者・運行経費〉



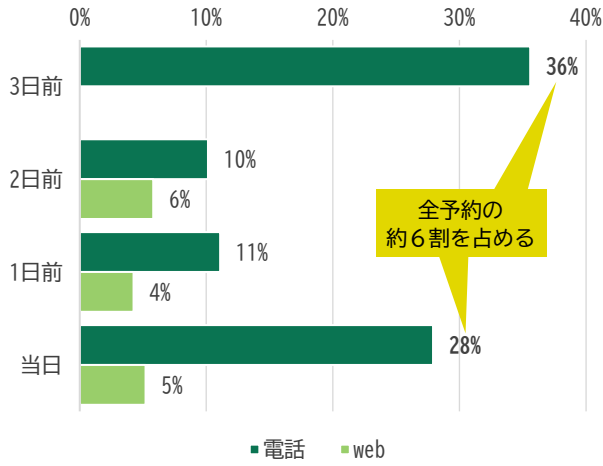
〈「電話でバス」の
利用者数・運行経費〉



- ・ 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」を運行しているが、需要の高さから予約が取りづらいう上に、乗り合いが進まず効率的な配車の実現できていない。

●電話予約の多さによるオペレータへの負担増加

〈「電話でバス」の予約方法と予約日
(R6年度)〉



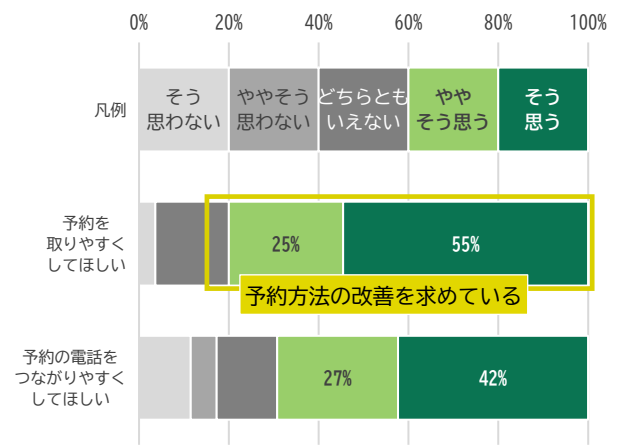
全予約の約6割を占める

資料：みどり市

※web予約は、2日前から受付

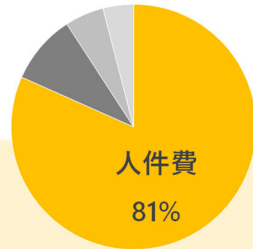
●予約の取りやすさを求める声

〈「電話でバス」の予約方法で改善してほしい事〉



資料：市民アンケート調査結果

コラム



公共交通を維持するための費用の話。

私たちの移動を支える公共交通を維持していくには多くの費用がかかります。

例えば、現在みどり市で運行しているバスでは、人件費が全体の約 8 割を占めています。これは、運転手や整備士など、バスを安全に走らせるために欠かせない方々のお給料です。

費用の多くは皆さまに納めていただいている税金から支払われています。税金を無駄にせず、より便利に活用する方法を「みどり市地域公共交通活性化協議会」で検討していきます。

バスがなくなってしまう・・・？

人口減少や人手不足により、地域のバス運行を取り巻く状況は年々厳しくなっています。しかし、バスは通勤・通学、通院や買い物など、生活の基盤を支える重要な役割を担っています。

地域の公共交通を将来へつなげるには、行政の支援や事業者の努力だけでは限界があります。子どもから高齢者まで、誰もが安心して移動できるまちを守るために、今こそ地域全体で「どうすればバスが走り続けられるか」を考えることが大切です。

“いつもは車だけど、今日はバスで行ってみよう”

——そんな小さな選択が、まちの未来を支える第一歩になるかもしれません。

第3章

基本的な方針・目標、施策



3-1 基本的な方針・目標

上位計画や関連計画、本市における公共交通の課題を踏まえ、「基本的な方針」と「目標」を以下のとおり定めます。

第2次みどり市総合計画に即し、市の将来像として「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」を掲げ、公共交通を最大限に活用することで、将来像の実現に寄与します。

多様な公共交通の充実により、利用する人々の利便性、地域の活性化に資する公共交通の持続可能性を確保し、みどり市の公共交通を未来へとつないでいきます。

将来像

第2次みどり市総合計画と
同じ目標を共有

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本的な方針

地域公共交通の「あるべき姿」

輝くひと 輝くみどり 未来へつなぐ公共交通

【輝くひと】 = 公共交通利用者 ⇒ 利便性を確保

【輝くみどり】 = 地域の活性化 ⇒ 公共交通の持続可能性を確保

目標

地域公共交通の「あるべき姿」を
実現するために期間中に達成すべきこと

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

- ・利用者が快適に移動でき、生活の質を高めることで、地域をつなぎ暮らしを支える公共交通を目指す。

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

- ・誰でも安心して利用できる環境を整え、安心と笑顔を運ぶ公共交通を目指す。

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

- ・人々の移動を円滑にすることで、まちに活気と成長をもたらし、地域の躍動を支える公共交通を目指す。

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

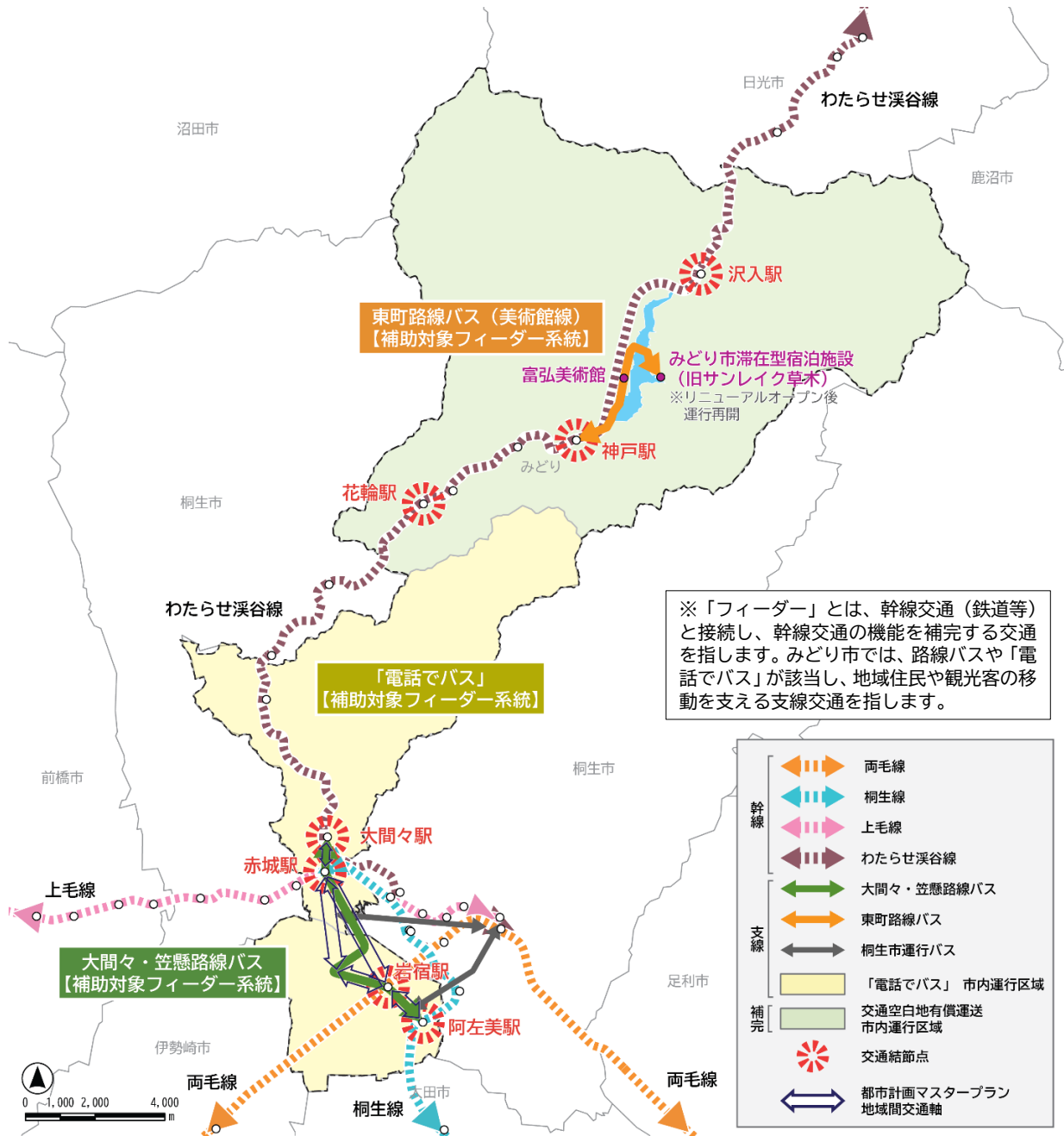
- ・地域住民や周辺自治体、交通事業者と連携し、持続可能で環境に配慮した、共に考え共に創る公共交通を目指す。

3-2 みどり市地域公共交通計画での公共交通ネットワーク

(1) みどり市の地域公共交通ネットワーク

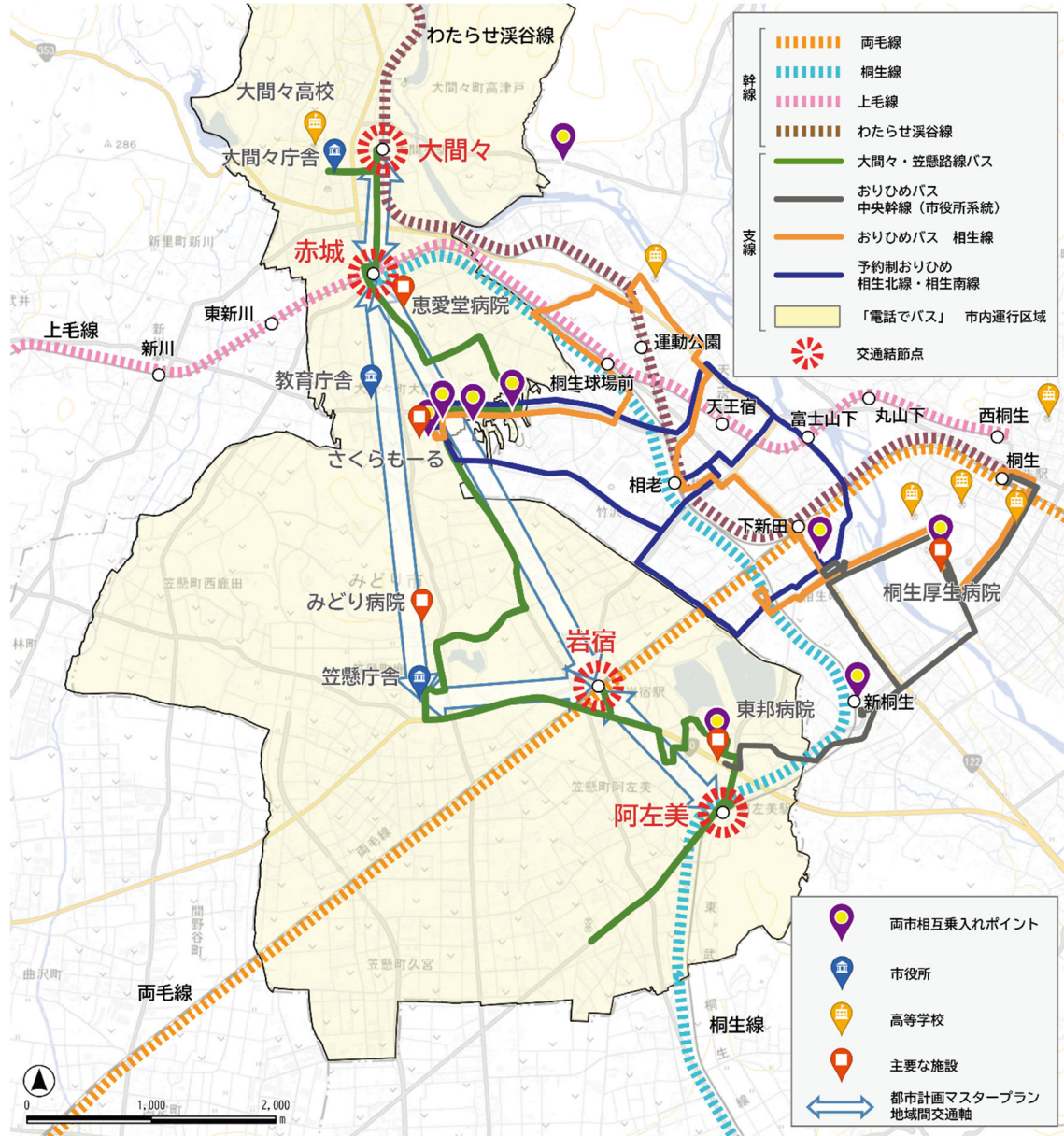
本計画の「基本的な方針」「目標」に基づき、本計画で位置づける公共交通ネットワークを以下に定めます。既存の公共交通を基本とし、隣接する桐生市の公共交通についても定めます。

● みどり市全域の公共交通ネットワーク



位置づけ	考え方
幹線交通	みどり市と地域間・都市間をつなぐ鉄道を位置づける。
支線交通	幹線を補完するみどり市内の公共交通、隣接する桐生市からみどり市へ乗入れるバスを位置づける。
補完交通	幹線交通・支線交通ではカバーできない個別移動、特定の目的のための公共交通を位置づける。
交通結節点	幹線交通・支線交通・補完交通の乗継拠点、地域・生活拠点となる鉄道駅を位置づける。

◎ 南部地域（笠懸町・大間々町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	・ 両毛線	・ 東日本旅客鉄道(株)
	2	・ 桐生線	・ 東武鉄道(株)
	3	・ 上毛線	・ 上毛電気鉄道(株)
	4	・ わたらせ渓谷線	・ わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	5	・ 大間々・笠懸路線バス [法第4条許可] 【補助対象フィーダー系統】	・ みどり市 (委託: 赤城観光自動車(株))
	6	・ 「電話でバス」[法第4条許可] 【補助対象フィーダー系統】	・ みどり市 (委託: 赤城観光自動車(株))
	7	・ おりひめバス (中央幹線 市役所系統、相生線) ・ 予約制おりひめ (相生北・相生南線)	・ 桐生市 (委託)
補完交通	8	・ タクシー	・ (株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、桐生朝日自動車(株)
	9	・ 福祉有償運送	・ 福祉有償運送事業者
	10	・ 小中学校スクールバス	・ みどり市 (委託)
	11	・ 桐生大学スクールバス	・ 桐生大学 (委託)
	12	・ ボートレース桐生無料巡回バス	・ (株)ボートネットワーク (委託)
	13	・ 高速バス (桐生駅南口発)	・ 東京空港交通(株)、日本中央バス(株)
補完交通 (環境に配慮)	14	・ 観光周遊バス (eCOM-8)	・ みどり市観光協会
	15	・ レンタサイクル	・ みどり市 (委託)、上毛電気鉄道(株)
交通 結節点	16	・ 岩宿駅、阿左美駅、赤城駅、大間々駅	・ 東日本旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、上毛電気鉄道(株)、わたらせ渓谷鐵道(株)

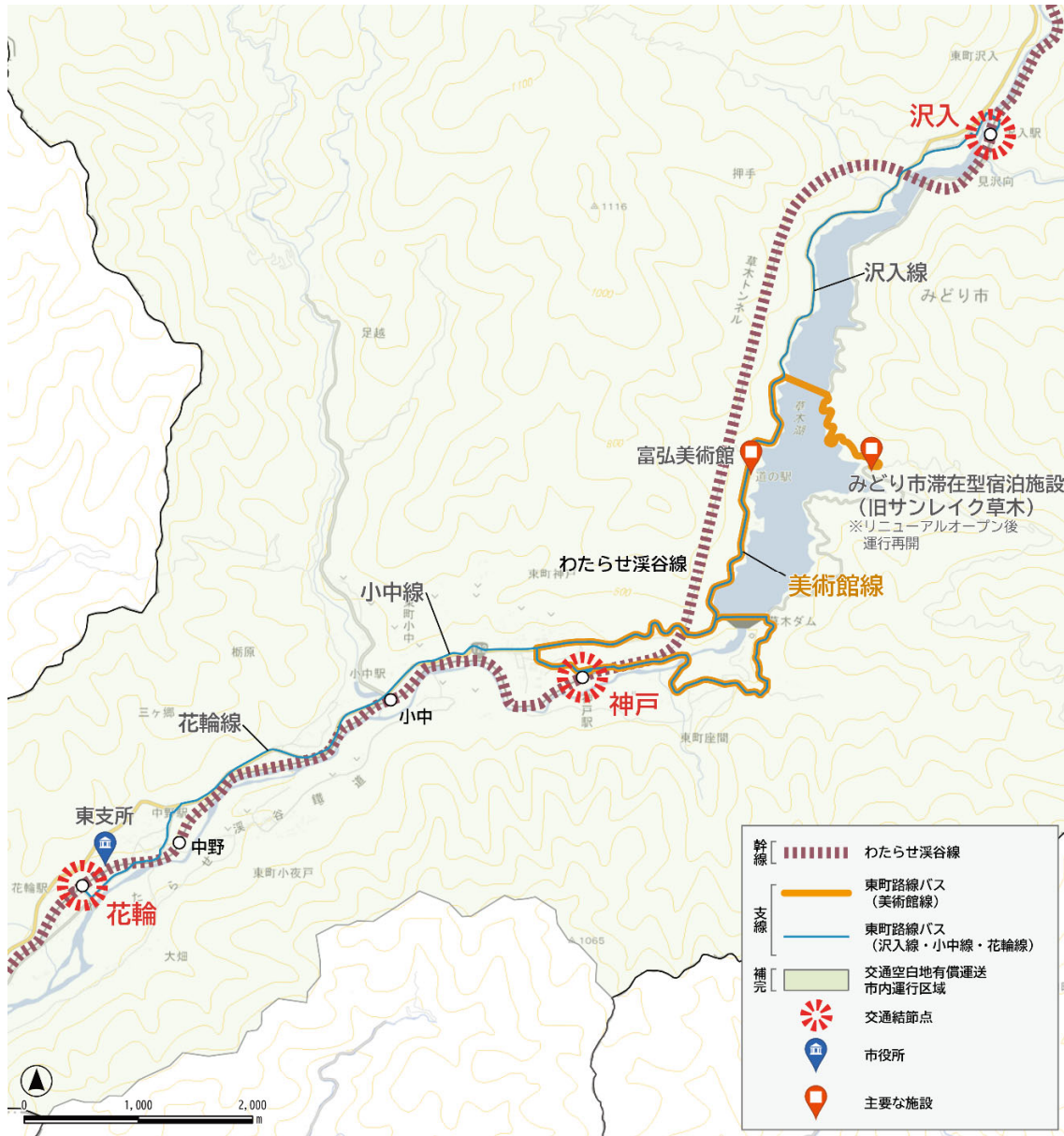
◎ 南部地域（笠懸町・大間々町）の位置づけ・役割

位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	・ 岩宿駅から桐生市・伊勢崎市・前橋市・高崎市への地域間の移動を担う ・ JR 高崎線・北陸新幹線及び JR 宇都宮線・東北新幹線に接続し、都市間の移動を担う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する ・ 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する※1 ・ 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取り組みを検討する※1 ・ 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
	2	・ 赤城駅・阿左美駅から太田市への地域間の移動を担う ・ 伊勢崎線及び小泉線に接続し、都市間の移動を担う	
	3	・ 赤城駅から桐生市・前橋市への移動を担う ・ 通勤・通学をメインとした地域間の移動を担う	
	4	・ 大間々駅から東町・桐生市への地域間の移動を担う ・ 間藤駅から日光市に接続し、都市間の移動を担う	
支線交通	5	・ 大間々駅・赤城駅・岩宿駅・阿左美駅を接続し、地域内の移動を担う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続的な運行を目指す ・ 桐生市地域公共交通計画に基づき、持続的な運行・交通事業者と協議のうえ、一定上の運行水準を確保する
	6	・ 笠懸町・大間々町内の地域内の移動を担う ・ 一部で、桐生市と地域間の移動を担う	
	7	・ みどり市・桐生市間の地域間の移動を担う	
補完交通	8	・ ドアツードアの移動を担う ・ 地域内・地域間の移動を担う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用ニーズに応じた運行水準を確保する
	9	・ 障がい者等の個別の移動を担う	
	10	・ 統廃合した小中学校の学区の児童・生徒の登下校を担う	
	11	・ 桐生第一高校・桐生大学を結び、桐生駅・阿左美駅を経由し学生の登下校を担う	
	12	・ 岩宿駅・阿左美駅からポートレース桐生、ポートレース桐生・みどモストリートパークまでの移動を担う	
補完交通 (環境に配慮)	13	・ 桐生駅（南口）から羽田空港までの空港アクセス、名古屋・大阪・仙台までの東西の都市間アクセスなど、長距離の移動を担う	
	14	・ 観光地までの移動、観光地の PR を目的とした運行を担う	
交通 結節点	15	・ まちなかの周遊、観光地までの移動を担う	
		16	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ

※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ（沿線地域交通リ・デザイン推進協議会「今後のあり方に関する基本方針」より）

◎ 北部地域（東町）の公共交通ネットワーク



位置づけ	No	交通サービス	交通事業者
幹線交通	1	・ わたらせ渓谷線	・ わたらせ渓谷鐵道(株)
支線交通	2	・ 東町路線バス（美術館線）[法第4条許可] 【補助対象フィーダー系統】	・ みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
	3	・ 東町路線バス（花輪線・小中線・沢入線）	・ みどり市（委託：赤城観光自動車(株)）
補完交通	4	・ 交通空白地有償運送	・ 特定非営利活動法人グループ28
	5	・ タクシー	・ (株)沼田屋タクシー、桐生合同自動車(株)、桐生朝日自動車(株)
	6	・ 小中学校スクールバス	・ みどり市（委託）
補完交通 (環境に配慮)	7	・ 観光周遊バス（eCOM-8）	・ みどり市観光協会
交通 結節点	8	・ 花輪駅、神戸駅、沢入駅	・ わたらせ渓谷鐵道(株)

◎ 北部地域（東町）の位置づけ・役割

位置づけ	No	主な役割	確保・維持策
幹線交通	1	<ul style="list-style-type: none"> 花輪駅・中野駅・小中駅・神戸駅・沢入駅から笠懸町・大間々町・桐生市への地域間の移動を担う 沢入駅から日光市の間藤駅に接続し、都市間の移動を担う 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する 地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する※1 沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取り組みを検討する※1 沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
支線交通	2	<ul style="list-style-type: none"> 神戸駅から富弘美術館までを接続し、わたらせ渓谷線から主に観光客の移動を担う 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す 利用ニーズに応じた運行水準を確保する 地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す
	3	<ul style="list-style-type: none"> 花輪駅・神戸駅・沢入駅を接続し、地域内の移動を担う 	
補完交通	4	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の移動に困っている人の移動を担う 東町を発着地とする、買い物や通院など日常生活に必要な移動を担う 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き運行に関わる支援を実施し、持続可能な運行を目指す 利用ニーズに応じた運行水準を確保する
	5	<ul style="list-style-type: none"> ドアツードアの移動を担う 地域内・地域間の移動を担う 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> あずま小中学校に通学する児童・生徒の登下校を担う 	
補完交通 (環境に配慮)	7	<ul style="list-style-type: none"> 観光地までの移動、観光地のPRを目的とした運行を担う 	
交通 結節点	8	<ul style="list-style-type: none"> 幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う 	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ

※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ（沿線地域交通リ・デザイン推進協議会「今後のあり方に関する基本方針」より）

(2) 地域公共交通確保維持改善事業の必要性（地域内フィーダー系統）

みどり市では、幹線交通として両毛線、桐生線、上毛線、わたらせ渓谷線の4つの鉄道が運行し、市内には10駅が存在しています。これらの鉄道は、地域間・都市間の移動を担う広域的な路線です。

また、支線交通（4つの鉄道の機能を補完し、市内移動を確保する路線）として、大間々・笠懸路線バス、東町路線バスおよび「電話でバス」を市が主体となって運行し、地域住民や観光客の市内移動を支えています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年（令和2年）以降、利用者は減少し、現在は回復傾向にあるものの十分には戻っていません。その結果、運賃収入も減少し、市や運行事業者の努力のみでは維持が困難な状況となっています。

本計画では、運行経費の削減を図るとともに、運賃収入の確保に向けて、市民や観光客が利用しやすい公共交通を目指します。

これらの経緯を踏まえ、地域公共交通確保維持改善事業の活用により運行を確保・維持する必要があるため、同事業活用の必要性について以下の路線を位置づけます。

大間々・笠懸路線バス

- ・大間々・笠懸路線バスは、みどり市都市計画マスタープランで「地域拠点」として位置づける「笠懸地域拠点（岩宿駅・阿左美駅周辺）」と「大間々地域拠点（赤城駅・大間々駅周辺）」を南北方向につなぐ路線として、通学をはじめ、買物・通院など日常生活の移動を担っています。また、隣接する桐生市が運行する「おりひめバス」と相互乗り換えが可能であり、両市間での移動を担っています。
- ・本市の特徴である鉄道4路線の主要駅を接続し、本市の公共交通ネットワークを構築するうえで重要な役割を担っています。

東町路線バス（美術館線）

- ・東町路線バス（美術館線）は、わたらせ渓谷鐵道「神戸駅」を起点として、みどり市都市計画マスタープランで「観光・レクリエーション拠点」として位置づける市の主要観光施設である「富弘美術館」や現在リニューアルオープンに向け整備を進める「みどり市滞在型宿泊施設（旧サンレイク草木）」をつなぐ路線として、主に観光客を中心とした移動を担っています。
- ・わたらせ渓谷鐵道とともに本市の観光振興を支える路線として重要な役割を担っています。

電話でバス

- ・「電話でバス」は、笠懸町・大間々町でのデマンド運行を実施し、主に高齢者の買物・通院などの日常生活に欠かせない移動手段を担っています。また、隣接する桐生市が運行する「おりひめバス」と相互乗り換えが可能であり、両市間での移動を担っています。
- ・大間々・笠懸路線バスとともに、自動車がなくても移動ができる環境を整備するうえで、重要な役割を担っています。

みどり市には沢山の公共交通機関があります！



みどり市マスコットキャラクター
みどモス

両毛線（JR 東日本）

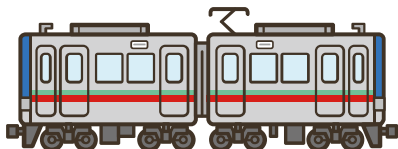
群馬県と栃木県をつなぐ、みどり市の“地域の大動脈”



群馬県高崎市の高崎駅から栃木県小山市の小山駅までを結ぶ路線です。みどり市では、岩宿駅から利用でき、通勤・通学に加えて桐生市や足利市など歴史あるまちへのアクセスも便利です。あしかがフラワーパークや足利学校など観光地への玄関口としても活躍し、みどり市から広域へつながる鉄道として地域の未来を支えています。

上毛線（上毛電気鉄道）

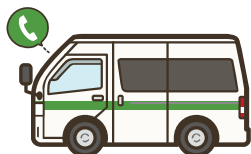
桐生と前橋を結び、みどり市の生活を支える鉄道



群馬県桐生市の西桐生駅から群馬県前橋市の中央前橋駅までを結ぶ路線です。みどり市では、赤城駅から利用でき、通勤・通学や病院・買い物などに欠かせない存在です。車窓からは赤城山や田園風景が広がり、地域の自然を感じながら移動できます。イベント列車や自転車をそのまま乗せられる「サイクルトレイン」など、暮らしに密着した工夫も魅力です。

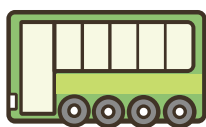
電話でバス

乗りたいときに、すぐ呼べる！



みどり市の「電話でバス」は、事前に電話で予約して利用する乗合バスです。決まった時刻やルートではなく、利用者の希望に合わせて運行します。買い物や通院など、日常の移動をサポートする「呼べる公共交通」として、車がなくても安心して暮らせる環境づくりに役立っています。

まだまだ他にも！



観光周遊バス



タクシー



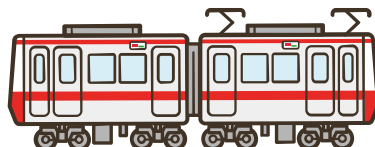
交通空白地有償輸送



レンタサイクル

桐生線（東武鉄道）

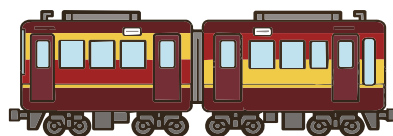
都心直通で、みどり市から東京へつながる鉄道



みどり市の赤城駅から群馬県太田市の太田駅までを結ぶ路線です。みどり市では、阿左美駅・赤城駅から利用できます。浅草発の特急「りょうもう号」に乗れば、みどり市から都心まで乗り換えなしでアクセス可能です。通勤や通学だけでなく、観光客を迎える玄関口としても重要です。藪塚温泉や桐生のまちなみと合わせて、みどり市を訪れる人々の移動を支えています。

わたらせ渓谷線（わたらせ渓谷鐵道）

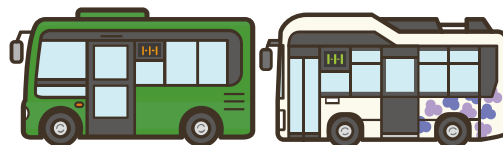
自然と観光を楽しめる、みどり市の“観光鉄道”



栃木県日光市の間藤駅から群馬県桐生市の桐生駅までを結ぶ路線です。みどり市では、大間々駅・神戸駅などから利用でき、渡良瀬川沿いを走る車窓からは、四季折々の渓谷美を楽しめます。トロッコ列車は観光客に人気で、春の桜や秋の紅葉など、みどり市の自然を全国に発信しています。地元の方にとっても、通勤・通学や病院・買い物への移動手段として大切な路線です。

路線バス（大間々・笠懸路線バス、東町路線バス）

のれる、つながる、まちのバス



みどり市内の路線バスは、主要な駅や市役所、病院、商業施設、観光地などを結び、市内の移動を支える公共交通です。あらかじめ決まった時刻表とルートに沿って運行されており、通勤・通学、買い物や通院、観光など日々の暮らしに利用できます。車がなくても移動できる、地域にとって大切な移動手段となっています。

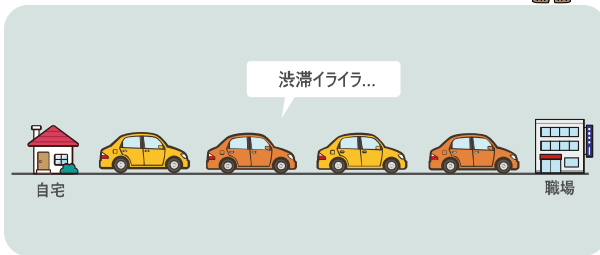
こんな使い方ができます！

みどり市では、市内全域において鉄道や路線バスなどの公共交通を活用した移動が可能なルートが整備されています。通勤・通学をはじめ、買い物や通院など、日常生活のさまざまな場面で利用できる交通ネットワークとなっています。

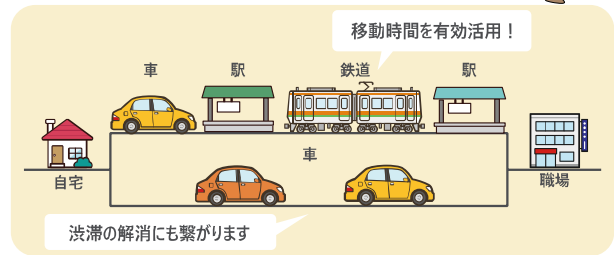
通勤

全域

市民の10人に8人が車通勤
渋滞疲れになっていませんか？



公共交通を使えば渋滞疲れから解放！
毎日の移動がちよっと賢沢に！



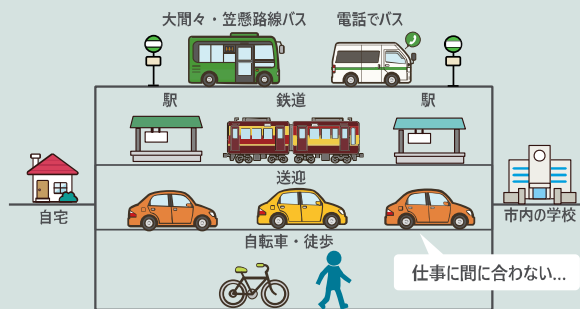
通学（高校生・大学生等）

全域

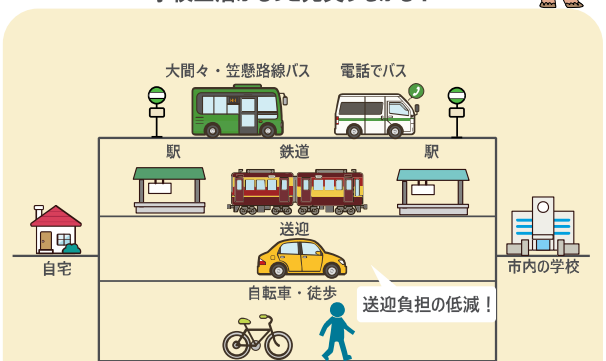
学校まで行くの大変だな。
もっとラクに通学したいな...



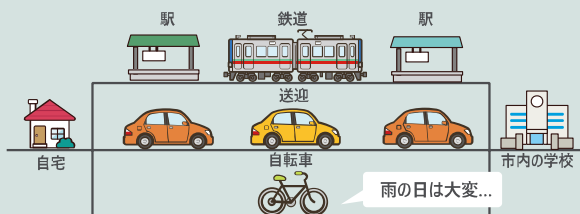
【市内在住⇒市内の学校】



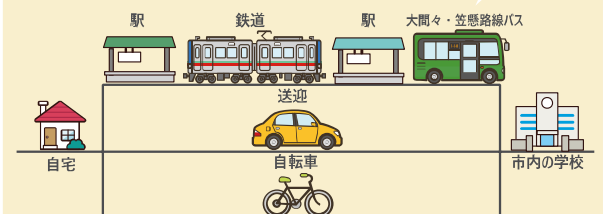
公共交通を使って通学すれば、
いつもの通学時間がちよっと楽しく、ちよっと楽に！
学校生活がもっと充実するかも？



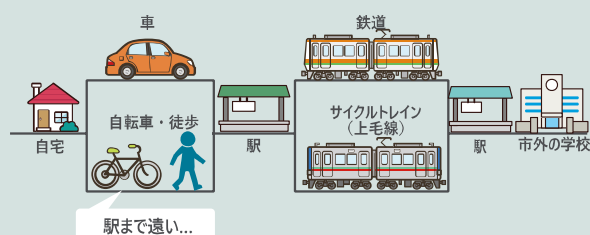
【市外在住⇒市内の学校】



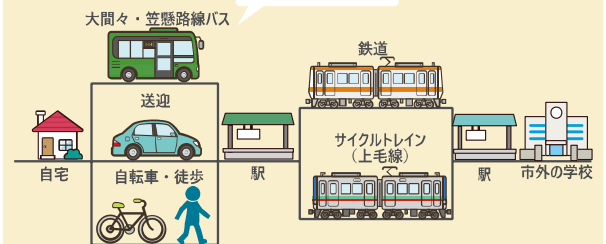
雨の日も安心！



【市内在住⇒みどり市外の学校】



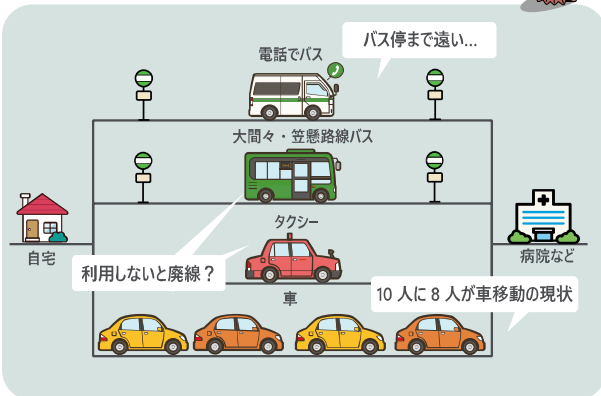
駅まで安全に行ける！



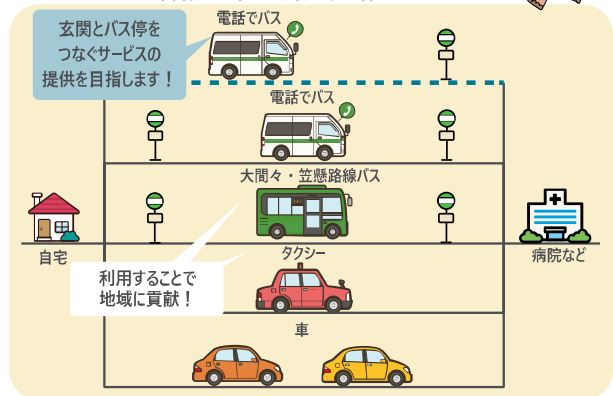
買い物・通院など

南部地域（笠懸町・大間々町）

車以外の選択肢、知っていますか？
知っているけど、バス停まで歩けない...

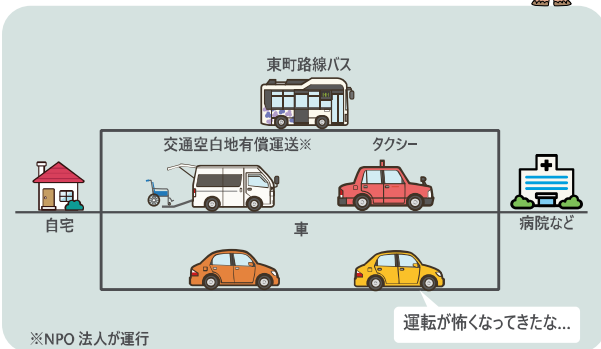


公共交通に乗ることで
移動しながら誰もが地域貢献できる！
皆様のお出かけ機会を増やします！

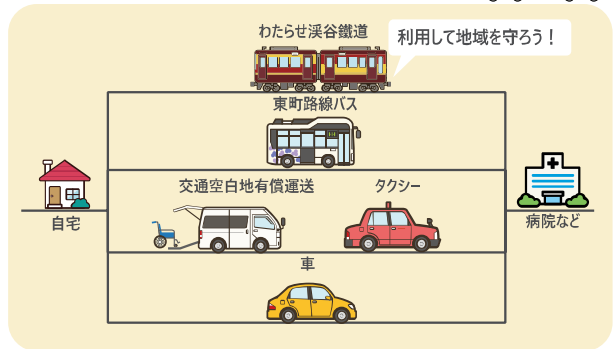


北部地域（東町）

東町では、10人に4人が高齢者。
いつまで運転しますか？



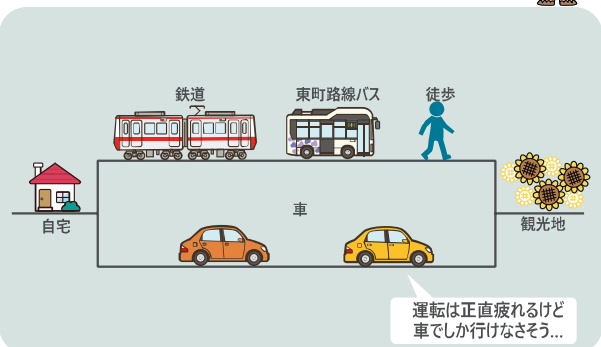
観光だけじゃない！
普段の生活にも「わ鐵」、使えます！
いつもと違うおでかけをしてみませんか？



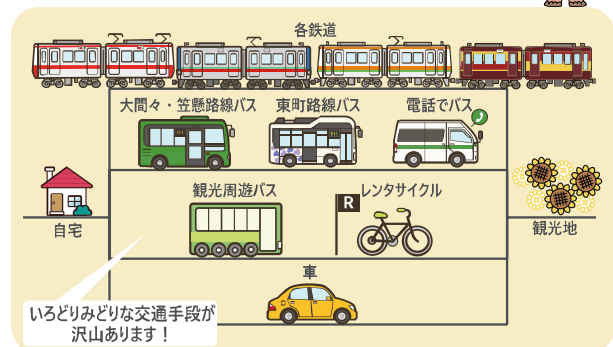
観光

全域

長時間の運転は疲れるな...
でも、みどり市まで車でしか行けないでしょ？



みどり市内には4つも鉄道があります！
公共交通にのって移動自体を楽しみませんか？



『使ってみよう、公共交通』
その気持ちで未来を創ります

3-3 目標達成のための施策・事業

(1) 施策・事業体系

「基本的な方針」を踏まえ、「目標」を達成するための施策を以下に示します。

◎ 目標・施策・事業と課題（テーマ）の関係

◎ テーマに直接的に関係する事業
○ テーマに間接的に関係する事業

対応する課題（テーマ）						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
市民	高校生	高齢者	観光客	安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	意識醸成 連携強化	最適化 支出抑制 DX・新技術
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供	一体となった連携体制の強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

①-1 公共交通ネットワークの改善・強化

①-1-1 4鉄道の維持・連携強化	◎			○	○	○	
①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し		◎			○	○	○
①-1-3 東町路線バスの改善・見直し			◎		○		○
①-1-4 「電話でバス」の改善・見直し	◎		◎		○	○	○
①-1-5 バス車両の更新	○	○	○	○			◎
①-1-6 駅機能の整備	○	○	○	○	◎	○	○
①-1-7 日本版ライドシェアの導入	◎					○	○
①-1-8 レンタサイクルの充実	○			◎	◎	○	
①-1-9 補助制度の活用	◎	◎	◎	◎			

①-2 交通DX・GXの推進

①-2-1 AIオンデマンド交通システムの効果検証	◎		◎		○		◎
①-2-2 運賃のキャッシュレス化の導入	○	○	○	○	◎		○
①-2-3 パスロケーションシステムの導入	○	○	○	○	◎		○
①-2-4 グリーンスローモビリティの運行	○			◎	◎		○
①-2-5 デジタルサイネージの設置	○			○	◎		○
①-2-6 MaaSシステムの導入	○			○	◎	◎	○

①-3 利用したくなる仕組みづくり

①-3-1 公共交通イベントの開催					◎	○	
①-3-2 バス停の案内看板デザインの変更					◎		
①-3-3 運賃補助制度の拡充	○	○	○		◎		
①-3-4 広報戦略の改善					◎	◎	

対応する課題（テーマ）						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
市民	高校生	高齢者	観光客	安心・安全 魅力向上・ 発信 収入確保	意識醸成 連携強化	最適化 支出抑制 DX・新技術
多様な公共交通を活用した目的に応じた柔軟に利用できる公共交通の構築	市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保	高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編	鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築	市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービス提供	一地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化	笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

- ◎ テーマに直接的に関係する事業
- テーマに間接的に関係する事業

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通							
②-1 バリアフリー化の推進							
②-1-1	バリアフリー車両の導入	○	○	○	○	◎	
②-1-2	駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○
②-2 快適性の向上							
②-2-1	公共交通オープンデータの整備・活用					◎	○
②-2-2	出前講座等の開催					◎	◎
②-2-3	駅機能の整備【①-1-6 再掲】	○	○	○	○	◎	○
②-2-4	AIオンデマンド交通システムの効果検証【①-2-1 再掲】	◎		◎		○	◎
②-2-5	運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】	○	○	○	○	◎	○
②-2-6	パスケーションシステムの導入【①-2-3 再掲】	○	○	○	○	◎	○
②-2-7	デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】	○			○	◎	○
②-2-8	MaaSシステムの導入【①-2-6 再掲】	○			○	◎	◎
③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通							
③-1 まちづくりと連携した交通施策の推進							
③-1-1	立地適正化計画との連携	○					◎
③-1-2	観光施策との連携				◎		◎
③-2 移動自体を楽しむ仕組みづくり							
③-2-1	景観を活かした運行	○			◎	◎	○
③-2-2	新たな移動サービスの調査・検討	○			○	◎	◎
③-2-3	グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】	○			◎	◎	○
④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通							
④-1 県・周辺自治体・市民と連携した交通施策の推進							
④-1-1	群馬県との連携強化						◎
④-1-2	桐生市との連携強化	○					◎
④-1-3	市民団体等による環境整備・情報発信					◎	◎
④-1-4	日本版ライドシェアの導入【①-1-7 再掲】	◎					○
④-2 地域企業との連携							
④-2-1	地元企業産のグッズの販売					○	◎
④-2-2	広告協賛事業の導入					◎	
④-2-3	商業施設・医療施設との連携					○	◎
④-3 公共交通の実態の周知							
④-3-1	公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施						◎
④-3-2	公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】					◎	○
④-3-3	広報戦略の改善【①-3-4 再掲】					◎	◎
④-3-4	出前講座等の開催【②-2-2 再掲】					◎	◎

(2) 事業内容

施策体系を踏まえ、以下の内容で事業内容を整理します。

◎ 施策・取組の内容表の見方

目標番号	目標名
施策番号	施策名
背景 目的	● 施策の背景と目的を示します。

事業番号	事業名						
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎ テーマ直接的に関係する事業、○ テーマに間接的に関係する事業						
事業内容	(1) 事業の内容を示します。						
エリア 路線等	● 事業の対象となるエリアや路線等を示します。						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【実施主体を示します】 ↓ 実施のスケジュールを示します					

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通
①-1	公共交通ネットワークの改善・強化
背景目的	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査結果では、市民の移動の8割程度が自動車での移動であり、公共交通が利用されていない。 ●各公共交通の収支率は、年々悪化し個々の公共交通だけの取り組みでは、公共交通を維持していくことが難しい状況となっている。 ●市民の公共交通利用での「おでかけ」を実現し、みどり市を訪れる観光客が快適に移動できるよう、既存の公共交通を改善・強化し、持続可能な公共交通を実現することを目的とする。 ●既存の公共交通の無駄を省き、効率的な運行と適切な予算配分を実現することを目的とする。

①-1-1	4 鉄道の維持・連携強化
--------------	---------------------

対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
事業内容	◎			○	○	○	
エリア路線等	●両毛線、桐生線、上毛線、わたらせ渓谷線						
スケジュール実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】リ・デザイン推進協議会による協議 →						
(2)	【鉄道事業者】パークアンドライド・サイクルトレインの強化 →						
(3)	【鉄道事業者、群馬県、みどり市】再生協議会での更新を検討 →						
(4)	【鉄道事業者】4鉄道が連携した取組の継続 →						

①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し								
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
		◎			○	○	○	
事業内容	(1) 鉄道（大間々駅、赤城駅、岩宿駅、阿左美駅）との接続を考慮したダイヤの調整を図る。 (2) みどり市内の通院先である「恵愛堂病院」「東邦病院」、利用者の少ない「アクロスプラザ」バス停については、利用者の動向に合わせたダイヤの調整を図る。 (3) 大間々高校生や市外へ通学する高校生が通学時間帯に利用できるよう、ダイヤの調整を図る。 (4) 高校生の多い笠懸南部に路線バスの運行を検討する。							
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス							
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
	(1)							
(2)			【委託業者、みどり市】ダイヤの調整・随時見直し					→
(3)								
(4)			【委託業者、みどり市】導入の検討					→

①-1-3 東町路線バスの改善・見直し								
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
				◎	○		○	
事業内容	(1) 現行路線における利用実態や今後の沿線の取り組みを踏まえ、想定されるニーズに対応できる路線への見直しを検討する。 (2) 主に観光客に利用され、「富弘美術館」「みどり市滞在型宿泊施設（旧サンレイク草木）」への需要があり、10月から11月にかけて利用者が増加するため、利用動向に合わせて増便などの対応の検討を行う。							
エリア 路線等	●東町路線バス							
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
	(1)			【委託業者、みどり市】利用実態等を踏まえた路線の見直しの検討・実施				
(2)			【委託業者、みどり市】美術館線の増便対応の検討・実施					→

①-1-4 「電話でバス」の改善・見直し							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎		◎		○	○	○
事業内容	(1) 住民の高齢化や「バス停まで遠い」といった実態に対応するため、玄関先まで迎えに行く仕組みも含めて運行体制を見直し、予約の取りにくさを改善して効率的で利用しやすいデマンドバスを目指す。その際、福祉有償運送の利用条件に該当しないが現行の仕組みでは利用が難しい人（アンケートで「バス停まで歩くのが大変」と回答した市民や妊婦など）を対象とし、タクシー事業者の民業を圧迫しないよう十分に協議を重ねた上で導入を検討する。						
エリア 路線等	●「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【委託事業者、みどり市】運行体制の見直し					

①-1-5 バス車両の更新							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○			◎
事業内容	(1) みどり市が運行する大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」の持続的な運行のため、計画的な車両更新を行う。						
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】バス車両の計画的な更新					

①-1-6 駅機能の整備							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎	○	○
事業内容	(1) 「岩宿駅を核とした総合的なまちづくりプラン」に基づき、岩宿駅周辺の整備を実施し、利用者の利便性と快適性の向上を図る。 (2) その他の駅についても、まちづくりや利用者動向に応じて、バスやタクシーなどの結節機能としての整備を検討する。						
エリア 路線等	●岩宿駅、その他市内の駅						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】 用地交渉、駅舎機能やコストの比較検討、検討結果を踏まえた事業推進（設計等）					
	(2)	【みどり市】まちづくり・利用者動向に応じて検討・実施					

①-1-7 日本版ライドシェアの導入							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎					○	○
事業内容	<p>(1) タクシー事業者の運転手不足への対応及び桐生市との生活圏との一体化を目的として、タクシー事業者・桐生市と連携し、「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」の導入を検討する。</p> <p>→桐生市では、タクシー運転手不足への対応として、タクシーの空き車両を活用した「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」を令和6年11月29日より開始し、市民の移動手段を確保している。</p>						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【タクシー事業者、桐生市】桐生市での日本版ライドシェアの運行					
		【タクシー事業者、桐生市、みどり市】みどり市内での検討・実施					

①-1-8 レンタサイクルの充実							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎	○	
事業内容	<p>(1) さらなる周知・PRを進め、利便性向上を図るため、設置場所の増設や車両の増車など、利用状況に応じて検討する。</p> <p>→市内5か所（みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅）に無料のレンタサイクルを設置し、主に観光客の移動手段として活用されている。</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅 ●その他主要な施設 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【みどり市】レンタサイクルの継続					
		【上毛電気鉄道、みどり市観光協会、民間事業者、みどり市】設置場所の増設、車両の増車に向けた検討・導入					

①-1-9 補助制度の活用							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎	◎	◎	◎			
事業内容	<p>(1) 持続可能な運行体制を構築するため、群馬県市町村乗合バス補助金、地域公共交通確保維持改善事業（国費）を活用し、維持・改善に取り組む。</p> <p>→大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」は、市民・観光客の移動手段として必要不可欠である。しかし、本市や事業者の運営努力だけでは、路線の維持が困難となっている。</p>						
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【みどり市】補助制度の活用の検討・実施					

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通
①-2	交通 DX・GX の推進
背景目的	<ul style="list-style-type: none"> ●「みどり市デジタル化推進計画」「みどり市 SDGs 未来都市計画」に基づき、DX・GX を推進しており、持続可能なまちづくりが求められている。 ●デジタル技術を活用した事業改革と環境に配慮した運行を推進し、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。

①-2-1 AI オンデマンド交通システムの効果検証							
対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	◎		◎		○		◎
事業内容	<p>(1) 予約に応じた最適ルートの自動計算による効率的な配車とスマートフォンアプリの活用により、「予約が取りにくい」問題の解消や利便性の向上を図る。 →利用者アンケートやヒアリングを通じて効果を検証し、より高い利便性と効率的な運行を目指す。</p>						
エリア路線等	●「電話でバス」						
スケジュール実施主体	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
	(1)	【委託事業者、みどり市】効果検証結果により随時見直し					

①-2-2 運賃のキャッシュレス化の導入							
対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	<p>(1) 運賃のキャッシュレス化の導入によって利便性が向上し、乗降時の時間短縮に寄与する。また、現金管理の手間が削減され、運営コストの抑制にもつながるため、今後の利用者動向に応じて段階的な導入を検討する。 →令和6年6月に大間々・笠懸路線バスに電子決済端末を導入したが、電子決済端末の利用率は0.5%から4%で推移している。</p>						
エリア路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール実施主体	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
	(1)	【委託事業者、みどり市】利用者動向に応じて導入検討					

①-2-3 バスロケーションシステムの導入							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		○
事業内容	(1) バスの乗り遅れなどを防ぐため、スマートフォン等でバスの現在地を確認できるバスロケーションシステムの導入を検討する。						
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【委託事業者、みどり市】導入に向けた検討					

①-2-4 グリーンスローモビリティの運行							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			◎	◎		○
事業内容	(1) みどり市観光協会が所有するグリーンスローモビリティを活用し、既存イベントでの運行に加え、ゆったりとしたスピードとコンパクトな車両という特徴を活かし、まちなか周遊ルートの開拓を検討する。						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市観光協会、みどり市】連携した運行の実施					

①-2-5 デジタルサイネージの設置							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎		○
事業内容	(1) 市内の主要駅やバス停留所、商業施設、医療施設などにデジタルサイネージを設置し、利便性の向上と情報発信の強化を図る。リアルタイムの運行情報や遅延情報を提供し、乗客の移動をよりスムーズにするとともに、公共交通の利用メリットを最大化する。 →設置にあたっては、多言語対応による訪日外国人向けの案内強化や、視認性の高い情報デザインを採用し、より多様な利用者が快適に移動できる環境を実現する。						
エリア 路線等	●主要な駅・バス停 ●商業施設・医療施設						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【民間事業者、交通事業者・みどり市】関係者・施設管理者との協議の上、設置検討・実施					

①-2-6 MaaS システムの導入							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○			○	◎	◎	○
事業内容	<p>(1) 群馬県で運営している「GunMaaS※1」やみどり市独自の「行政 MaaS※2」の導入を検討する。</p> <p>→※1：MaaS (Mobility as a Service) システムの導入により、市民や観光客の移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせた検索・予約・決済を一括で行うことが可能となる。さらに、観光や医療など交通以外の分野との連携を強化することで、移動の利便性向上だけでなく、地域の活性化にも貢献する。</p> <p>→※2：行政 MaaS：庁舎とオンラインで接続されたマルチタスク車両を活用し、行政職員が現地へ移動することなく、各種申請や相談に対応できる移動型行政サービス。住民がアクセスしやすい場所で行政サービスを受けられる。</p>						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	<p>【交通事業者、委託事業者、みどり市】 みどり市に合ったシステムの検討・導入</p> <p style="text-align: right;">—————→</p>					

① 人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通

①-3 利用したくなる仕組みづくり

背景目的

- 路線バスを利用しない理由として、運行エリアの住民であっても「バスの存在を知らない」や「自家用車を運転するため利用しない」といった要因がある。そのため、情報の周知や公共交通の魅力を発信することが求められている。
- 特に通学時に鉄道を利用しない高校生は、公共交通に対する関心が低い傾向があり、幼少期から公共交通への関心を育むことが求められている。
- 公共交通の利便性向上だけでなく、移動の快適性と情報提供の質を向上させ、魅力を発信することで、利用の「きっかけ」を創出し、さらなる利用促進を図ることを目的とする。

①-3-1 公共交通イベントの開催

対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	○	

事業内容

(1) 公共交通の魅力を広く伝え、利用促進と認知度向上を図るため、車両を活用した体験型イベントや地域住民・観光客向けの公共交通イベント、環境施策と連携したイベントの実施を検討する。

→公共交通の利用方法を分かりやすく伝えることで、誰もが安心して公共交通を利用できる環境を整え、利用促進を図る。

→事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント

→事例：上毛電気鉄道(株)による、「デハ101」車両の貸切運転

→事例：上毛電鉄友の会による、「スタンプラリー」イベント

- ぐんまローカルスタンプラリー
 - 【鉄道デジタル駅スタンプデザイン】 JR東日本
 - 【エネタグ駅乗降入駅】 エネタグ
- 上毛電鉄友の会企画のスタンプラリー



出典：JR東日本 HP



出典：上毛電鉄友の会 HP

エリア・路線等

- 各公共交通
- 各駅

スケジュール実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【鉄道事業者、関係団体】鉄道各社によるイベントの実施継続					
		【交通事業者、観光協会、みどり市】みどり市が主体となったイベントの検討・実施					

①-3-2 バス停の案内看板デザインの変更								
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
					◎			
事業内容	<p>(1) バス停での待ち時間が「楽しい」と感じられるよう、待合環境の改善を含むバス停デザインの変更を行う。</p> <p>→バス停の案内看板のデザインを刷新することで、利用者の利便性向上と公共交通の魅力向上を図る。視認性の高いデザインの採用や、多言語対応による情報提供の強化を進めることで、誰もが快適に公共交通を利用できる環境を整える。</p> <p>→みどり市の特色を活かしたデザイン要素を取り入れることで、公共交通と地域の魅力を一体的に発信し、まちづくりの観点からも貢献する。</p>							
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス							
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
(1)		【委託事業者、みどり市】デザインの検討・実施						→

①-3-3 運賃補助制度の拡充								
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
	○	○	○		◎			
事業内容	<p>(1) 高齢者、障がい者、学生、子育て世帯、観光客など、移動の支援が求められる層に対して補助を行い、公共交通の利用促進と移動負担軽減を図る。</p> <p>→移動の利便性を向上させるだけでなく、地域経済の活性化や公共交通の持続可能性確保にも寄与する。</p>							
エリア 路線等	●各鉄道、大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」							
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
(1)		【みどり市】高校生・高齢者等への運賃補助の継続						→
			【みどり市】他の利用者に対する補助の検討・導入					→

①-3-4 広報戦略の改善							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎	◎	
事業内容	<p>(1) 各公共交通が連携し、一元化された情報提供の仕組みを検討する。 →SNS や公式アプリを通じたリアルタイム情報提供、地域イベントとの連携、視認性の高い広告展開などを進めることで、公共交通の魅力を効果的に伝え、利用促進につなげる。また、多言語対応やアクセシビリティ向上にも重点を置き、より多様な利用者に向けた情報発信の強化を推進する。</p>						
エリア 路線等	●各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、観光協会、みどり市】各公共交通事業者による運営継続					
		【交通事業者、観光協会、みどり市】一元化された情報提供の検討・導入					

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通
②-1	バリアフリー化の推進
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 60 歳以上で、5 年以内に免許返納を検討している人は、バリアフリー化への関心が高い傾向があるが、路線バスをはじめ、十分なバリアフリー対応が進んでいないため、さらなる整備を進め、公共交通に対する障壁をなくすことが求められている。 ● バリアフリー対応の車両更新だけでなく、玄関先まで迎えに行く交通の検討、駅舎のバリアフリー化などの交通結節点整備を進める。

②-1-1 バリアフリー車両の導入							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○	○	○	○	◎		
事業内容	<p>(1) 多様な利用者が快適に公共交通を利用できる環境を整えるため、車両更新の際は利用者・地域のニーズを踏まえた上で、適切なバリアフリー対応車両を導入する。</p> <p>→高齢者や障がい者、ベビーカー利用者など、多様な乗客の移動を支援し、公共交通の利便性の向上と持続可能な移動環境の実現に貢献する。</p>						
エリア 路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、「電話でバス」						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市】更新時期に合わせてバリアフリー車両の導入					

②-1-2	駅機能の整備【①-1-6 再掲】
--------------	-------------------------

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通
②-2	快適性の向上
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 「バスがいつ乗れるかわからず不安」と感じることや、運賃のキャッシュレス化の遅れなどによって、公共交通の利用に不便さを感じているため、快適性の向上が求められている。 ● デジタル技術の活用や待合環境の改善を通じて、公共交通の利用をより快適にし、ストレスのない移動を実現することを目的とする。

②-2-1 公共交通オープンデータの整備・活用							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		○
事業内容	<p>(1) 「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」の整備を進め、インターネットでの経路検索をはじめ、デジタルサイネージでの運行案内、各種アプリとの連携など活用方法を検討する。</p> <p>→国土交通省では、経路検索に必要な情報の整備を促進するとともに、バス事業者と経路検索事業者等の情報利用者との間で、データの受け渡しが効率的に行われるよう、平成 29 年 3 月に、経路検索に必要な時刻表や運行経路等の静的情報を統一された様式でデータ化する方法を「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」として定めている。</p>						
エリア 路線等	●各公共交通						
スケジュール		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【委託事業者、みどり市】オープンデータの整備・活用の検討					
→							

②-2-2 出前講座等の開催							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		◎
事業内容	<p>(1) 「みどり市どこでも出前講座」をはじめとした出前講座を実施し、公共交通の乗り方を学ぶとともに認知度や意識の向上を図り、公共交通利用への第一歩となるような機会を提供する。</p> <p>(2) 市内の小中学生を対象に、みどり市の路線バス車両を使った「バスの乗り方教室」を開催する。公共交通の使い方を学ぶことで、バス利用への不安を減らし、気軽に乗れる環境づくりを目指す。</p> <p>(3) 市内の中学生を対象に交通安全教育を行い、自転車事故発生の抑止に努める。特に岩宿駅周辺では発生密度が高いため、今後も継続的に実施し、注意喚起や周知を徹底していく。</p>						
エリア 路線等	●各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者、みどり市】出前講座の開催					
	(2)		【交通事業者・小中学校・みどり市】公共交通の乗り方教室の検討				
	(3)	【小中学校、みどり市】小中学生を対象とした交通安全教育の実施					

②-2-3 駅機能の整備【①-1-6 再掲】

②-2-4 AI オンデマンド交通システムの効果検証【①-2-1 再掲】

②-2-5 運賃のキャッシュレス化の導入【①-2-2 再掲】

②-2-6 バスロケーションシステムの導入【①-2-3 再掲】

②-2-7 デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】

②-2-8 MaaS システムの導入【①-2-6 再掲】

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

③-1 まちづくりと連携した交通施策の推進

背景目的

- 本市は、市町村合併により笠懸町・大間々町・東町とそれぞれの地理条件や人口規模が異なるため、立地適正化計画による「コンパクト」な市街地の形成と併せて、地域・生活拠点をつなぐ「ネットワーク」の維持・形成が必要となる。
- 「みどり市観光振興計画」と連携し、計画の柱の一つである「街道の文化を生かし、地域間の資源をつなぐ」に寄与する公共交通を実現する必要がある。
- 「第2次みどり市総合計画」で掲げる将来像「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向け、公共交通の分野からまちづくりを推進することを目的とする。

③-1-1 立地適正化計画との連携

対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	○

事業内容

(1) 立地適正化計画と一体となった施策を実施することで、住民移動の円滑化、地域の活性化を促進する。

→立地適正化計画で位置づけた居住誘導区域と都市機能誘導区域、地域・生活拠点をつなぐ路線バス、「電話でバス」の運行を継続し、市民や来訪者の移動を確保することで、生活の質の向上・地域の活性化に寄与する。

- 笠懸地域拠点
居住誘導区域・都市機能誘導区域
- 大間々地域拠点
居住誘導区域・都市機能誘導区域

出典：みどり市立地適正化計画

エリア路線等

●市内全域

スケジュール実施主体	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【みどり市】みどり市立地適正化計画の策定					
	【交通事業者、みどり市】立地適正化計画と連動した施策の推進					

③-1-2 観光施策との連携

対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
				◎		◎	
事業内容	<p>(1) 公共交通での来訪を促進するため、みどり市観光協会や交通事業者と連携し、周知・PRを強化する。</p> <p>→みどり市観光ポータルサイト（いろどりみどり市）を活用し、公共交通を利用したアクセス方法や運行状況を公開することで、公共交通の利用へのハードルを下げる。観光客の移動の周遊性を高め、新規の来訪者やリピーターの増加を促進する。</p> <p>→わたらせ渓谷鐵道沿線の「みどり市滞在型宿泊施設（旧サンレイク草木）」や水沼駅では開発が進み、みどり市・桐生市への来訪者の増加が見込まれる。</p> <p>● みどり市観光ポータルサイト（いろどりみどり市）</p> <div data-bbox="391 728 1407 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p style="text-align: right;">出典：いろどりみどり市 HP</p>						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)		【みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市の継続運営					→
		【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】いろどりみどり市と連携した公共交通情報の発信					→

③	活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通
③-2	移動自体を楽しむ仕組みづくり
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 来訪者アンケート結果では、みどり市を訪れる目的として「わたらせ渓谷の自然景観を楽しむ」「鉄道を楽しむ」ことが求められている。 ● 鉄道や路線バスを楽しみながら移動する環境を創出することで、地域自体の魅力を引き出し、住民や観光客が公共交通を利用を後押しする。 ● 公共交通を単なる移動手段とするのではなく、移動そのものを楽しめるようにし、みどり市ならではの特色ある移動環境を整えることを目的とする。 ● 公共交通とまちなか活性化事業を組み合わせ、地域の活性化を推進することを目的とする。

③-2-1 景観を活かした運行							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
事業内容	○			◎	◎		○
事業内容	<p>(1) みどり市の美しい景観を最大限に活用し、公共交通の魅力を向上させる。車窓からの風景を楽しめるルート設定や、観光資源と連携した特別運行を実施することで、移動そのものを体験型コンテンツとして提供する。</p> <p>→事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、「トロッコわたらせ渓谷号」「トロッコわっしー号」の運行</p> <p>→事例：みどり市観光協会による、「観光周遊バス（グリーンスローモビリティ）」の運行</p>						
エリア 路線等	●各公共交通						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】景観を活かした運行の継続					

③-2-2 新たな移動サービスの調査・検討							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
事業内容	○			○	◎		◎
事業内容	<p>(1) みどり市観光協会が運行している観光周遊バス（低速電動バス）だけでなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして、地域の活性化に寄与する新たな移動サービスの導入に向けた調査・検討を行う。</p>						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
実施主体	(1)	【交通事業者、みどり市観光協会、みどり市】新たな移動サービスの調査・検討					

③-2-3 グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】							
--	--	--	--	--	--	--	--

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通	
④-1 官民連携した交通施策の推進	
背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ●群馬県主導の「沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」において、「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」の再構築を目的とした協議が行われており、「地域公共交通計画」の策定を目指している。 ●市民の日常の移動において、桐生市との連携が求められている。 ●群馬県及びみどり市と生活圏を共有する桐生市の連携を強化し、地域の活性化を促すことを目的とする。

④-1-1 群馬県との連携強化							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
						◎	○
事業内容	(1) GunMaaSの活用や公共交通に関するイベントの開催など、群馬県との連携事業を一層強化するとともに、鉄道会社の現状分析等を踏まえた車両更新計画の検討や、各鉄道会社の経営力・企画力強化に向けたサポート体制の導入を進める。あわせて、鉄道沿線にもたらす効果を最大化する取り組みを検討し、地域の活性化につなげます。						
エリア 路線等	●市内全域						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、群馬県、みどり市】連携強化に向けた取組の検討・実施 →						

④-1-2 桐生市との連携強化							
対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	○					◎	
事業内容	(1) バス交通について、桐生市との乗り入れポイントを拡充し、市民のさらなる利便性向上を図る。 (2) 将来的には両市での一体的なバス路線体系の構築を目指す。						
エリア 路線等	●桐生市（おりひめバス）、みどり市（大間々・笠懸路線バス、「電話でバス」）						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での相互乗り入れの継続・強化 →						
(2)	【交通事業者、桐生市、みどり市】両市での一体的なバス路線体系の検討 →						

対応する
テーマ

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

◎

◎

(1) 市内で継続的に地域活動に取り組んでいる市民団体の活動として、「わたらせ渓谷鉄道市民協議会」の呼びかけによる活動、「わたらせ渓谷鉄道各駅イルミネーション事業実行委員会」、「郷土を美しくする会」やわたらせ渓谷鉄道の「ふるさと駅長」制度など、多様な主体が活動している。これらの市民団体等は、みどり市全体の環境整備や観光情報の発信にも取り組んでおり、活動を通じて今後もみどり市の魅力を発信する。その一方で、各市民団体の高齢化により活動の継続が課題となっているため、持続的な活動を可能にする仕組みづくりや世代を超えた参加を促し、地域の魅力発信を安定的に進めていく。

- ◎ 「わたらせ渓谷鉄道市民協議会」の呼びかけによる活動（ピカピカ大作戦の様子）



出典：わたらせ渓谷鉄道 HP

- ◎ 「郷土を美しくする会」の活動（赤城駅・大間々駅におけるトイレ清掃の様子）



出典：郷土を美しくする会

- ◎ 「わたらせ渓谷鉄道各駅イルミネーション実行委員会」の呼びかけによる活動（大間々駅の飾り付けの様子）



出典：わたらせ渓谷鉄道各駅イルミネーション実行委員会

事業内容

④-1-3

市民団体等による環境整備・情報発信

事業内容

(2) 若者の視点で見つけたみどり市の魅力を写真に収め、情報を発信する市民 PR チーム「み撮り部」が発足した。今後は活動の範囲を公共交通の分野にも広げ、行政・交通事業者・利用者・その他関係者と連携しながら、公共交通にとどまらず地域全体の魅力を発信する。

◎ 「み撮り部」の活動（公式 Instagram より）



出典：みどり市民 PR チーム公式 Instagram 「み撮り部」 (@midoribu_midori_city)

エリア
路線等

- 市内全域
- 各公共交通

スケジュール
実施主体

	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【市民団体等】活動を通じてみどり市の魅力を発信					
(2)	【み撮り部】みどり市の魅力を発信					

④-1-4

日本版ライドシェアの導入【①-1-7 再掲】

「第22回わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション」の様子



④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

④-2 地域企業との連携

背景 目的	<ul style="list-style-type: none"> ●わたらせ渓谷鐵道では、運賃外収入としてグッズの販売を行っているが、地元企業のPRを同時に行っている。 ●公共交通を単なる移動手段として利用するのではなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして活用し、地域の活性化につなげることを目的とする。 ●さらに、わたらせ渓谷鐵道は地域に根ざした鉄道として、地域ブランドの認知度を高めるとともに利便性を向上させ、持続可能な社会づくりを推進する。
------------------	---

④-2-1 地元企業産のグッズの販売

対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	

事業内容	<p>(1) 地域の公共交通機関と地元企業が連携し、特産品やオリジナルグッズの販売を通じて、地域活性化と公共交通の利用促進を図る。駅やバス停、車両内などのスペースを活用し、観光客や通勤・通学者に向けて地元企業産の魅力ある商品・情報を提供する。</p> <p>→オンライン販売や乗車特典の限定アイテム展開を通じて、公共交通の利用価値を高めるとともに、地域経済への貢献を強化や乗務員確保に貢献をする。</p> <p>→事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、織物鐵印の販売</p> <p>→事例：上毛電気鐵道(株)による、地元企業産グッズ等の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「桐生織」による織物鐵印 ● 車掌・運転士・車両バッジ
-------------	---



出典：わたらせ渓谷鐵道 HP



出典：上毛電気鐵道 HP

エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●各公共交通 ●主要な鉄道駅
--------------------	---

スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	【交通事業者、みどり市】鉄道各社の実施継続						
	【交通事業者・みどり市】みどり市、みどり市観光協会での導入検討						

④-2-2 広告協賛事業の導入

対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					◎		
事業内容	<p>(1) 鉄道・バス車両や時刻表への広告掲載、停留所のネーミングライツ、車両ラッピングなどの協賛金により、運賃外収入を確保する。</p> <p>◎ つり革オーナー制度</p>  <p>◎ まくら木オーナー制度</p>  <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p> <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●市内全域 ●各公共交通 ●主要な鉄道駅 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	<p>【鉄道事業者】鉄道各社での実施継続</p> <p>【委託事業者、みどり市】みどり市路線バス、「電話でバス」での導入検討</p>						

④-2-3 商業施設・医療施設との連携

対応する テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					○	◎	
事業内容	<p>(1) 公共交通利用者向けの施設内優待サービスの提供、乗車券と施設利用特典を組み合わせたキャンペーンなどの実施を検討する。</p> <p>→公共交通と商業施設・医療施設が連携し、地域住民や訪問者の移動利便性を向上させるとともに、施設利用の利便性を図る。</p>						
エリア 路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●市内全域 ●各公共交通 						
スケジュール 実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
(1)	<p>【民間事業者・委託事業者・みどり市】さくらモールでの割引券の発行の継続</p> <p>【民間事業者・委託事業者・みどり市】他の商業施設・医療施設との連携の検討</p>						

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通	
④-3 公共交通の実態の周知	
背景目的	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の移動の8割程度が、自動車での移動であり、公共交通に対する意識が低いように、利用されていない。 ●公共交通を利用する人は、公共交通への意識が高い傾向がある一方で、通学時に鉄道を利用していない高校生は、その意識が低く、将来的な公共交通利用に影響を与える可能性がある。 ●移動手段を提供するだけでなく、公共交通の現状と将来のあり方を共に考え、利便性の向上とサービス認知度の拡大を図り、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。

④-3-1 公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施							
対応するテーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦ ◎
事業内容	(1) モニタリングを通じて施策の効果を評価し、必要に応じて改善を行うため、利用者数の調査やアンケートを実施し、地域交通のニーズの変化を把握する。 →利用実態のない区間やバス停留所について、随時見直しを行うための根拠資料として活用する。						
エリア路線等	●各公共交通						
スケジュール実施主体		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
	(1)	【交通事業者・みどり市】利用実態調査・モニタリングの継続 →					

- ④-3-3 公共交通イベントの開催【①-3-1 再掲】**
- ④-3-4 広報戦略の改善【①-3-4 再掲】**
- ④-3-5 出前講座等の開催【②-2-2 再掲】**

コ ラ ム

●「自動車」と「大間々・笠懸路線バス」のコスト比較

想定：週5日通勤・休日に外出する場合の1年間コスト

※週5日通勤の距離：合計7,000km（大間々駅周辺から阿左美駅周辺 往復約16km × 250日）を想定
 休日（52日）の外出距離：合計1,500kmを想定

自動車を持っている場合の1年間のコスト
 （車両価格300万円の車を約8年間使用する場合）

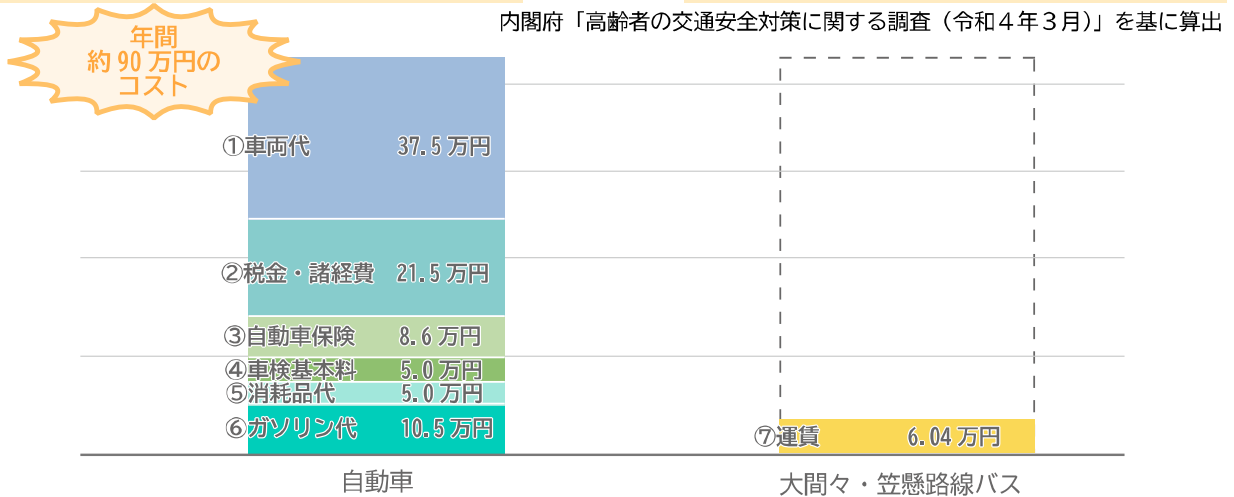
- ①車両代… 37.5万円
- ②税金・諸費用…21.5万円
- ③自動車保険…8.6万円
- ④車検基本料…5.0万円
- ⑤消耗品代…5.0万円
- ⑥ガソリン代…10.5万円

合計… 88.1万円

自動車を持っていない場合の1年間のコスト
 （運賃100円の大間々・笠懸路線バスを利用する場合）

- ⑦運賃… 6.04万円
- 平日（週5日勤務）
250日 × 2回利用 × 100円 = 5.00万円
- 休日
52日 × 2回利用 × 100円 = 1.04万円

合計… 6.04万円



●自動車のCO2排出量について

自家用自動車の輸送量当たりの二酸化炭素排出量は127g-CO₂/人・kmとされています。*1 例えば、大間々駅周辺から阿左美駅周辺まで（往復約16km）を車で週5日通勤する場合、年間で約0.51トンのCO₂を排出することになります。

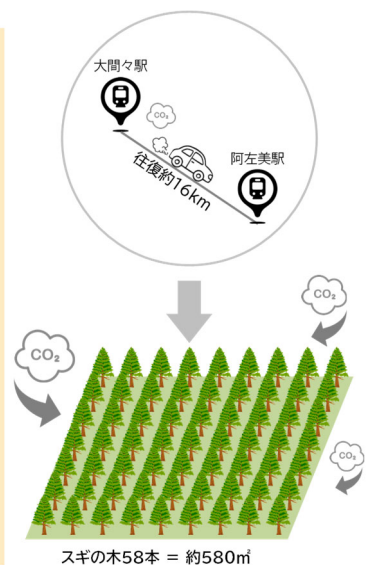
$$127\text{g-CO}_2/\text{人 km} \times 16\text{km} \times \text{約}250\text{日（週5日通勤年間日数）} = 0.51\text{t}$$

これは、スギの木約58本*2が1年間かけて吸収する量に相当します。面積では、580㎡程度となります。みどり市では、大間々・笠懸路線バスに電気バスを導入しています。電気バスは走行時のCO₂排出が実質“ゼロ”。

電気バスを利用することは、未来の環境を守ることに繋がります。

*1 出典：国土交通省

*2 出典：林野庁資料 1本あたり約8.8kg=0.0088t



第4章

計画の評価・進行管理



4-1 評価指標・目標値

(1) 数値指標・目標値の考え方

施策・取組の実施状況、目標の達成状況を確認するため、評価指標・目標値を設定します。

「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

本計画では、各目標に対して「評価指標」を設定し、施策・取組の実施状況、目標の達成状況を把握し、評価・改善を行います。

◎ 評価指標と目標の関係

目標① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

目標② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

目標③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

目標④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

No	評価指標	基準値	目標値	単位	目標			
					①	②	③	④
1	鉄道（市内10駅）の利用者数	141	168	万人	○			
2	大間々・笠懸路線バスの利用者数	9,456	16,000	人	○			
3	東町路線バス（美術館線）の利用者数	4,858	9,000	人	○			
4	「電話でバス」の利用者数	20,336	28,600	人	○			
5	大間々・笠懸路線バスの利用者1人当たりの財政負担額	1,667	985	円/人	○			
6	東町路線バス（美術館線）の利用者1人当たりの財政負担額	1,883	976	円/人	○			
7	「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額	3,031	2,308	円/人	○			
8	移動に困らない市民の割合（70才以上）	73.2	81.0	%	○	○		
9	わたらせ渓谷鐵道（市内7駅）の定期外利用者数	7.2	9.5	万人			○	
10	公共交通に関するイベント・教室の参加人数	0	前年度より増加	人	○			○
11	電気バス利用によるCO ₂ の削減量	9.4	18.8	t				○

1 鉄道（市内10駅）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
141	168	万人	<p>現状市民1人あたり年間約29回の利用 [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民1人あたり年間36回以上 (現状+7回)の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内10駅の年間利用者数の合計
2 大間々・笠懸路線バスの利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
9,456	16,000	人	<p>現状市民の5人に1人しか利用していない (市民1人あたり約0.2回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民の3人に1人は年間1回以上の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数
3 東町路線バス（美術館線）の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
4,858	9,000	人	<p>現状市民の10人に1人しか利用していない (市民1人あたり約0.1回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p>↓</p> <p>目標市民の5人に1人は年間1回以上の利用 [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
			<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数

4 「電話でバス」の利用者数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
20,336	28,600	人	<p>現状市民の3人に1人の利用 (市民1人あたり約0.4回の利用) [2025年4月時点の総人口：48,269人]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>目標市民2人に1人は年間1回以上の利用 または、現状利用者の利用回数を1.4倍にする [2030年の推計値の総人口：47,127人]</p>
算出方法			
・年間利用者数			

利用者数	
2024年度 (R6年度)	2030年度 (R12年度)
20,336	28,600
+8,264	

5 大間々・笠懸路線バスの利用者1人当たりの財政負担額			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
1,667	985	円/人	・人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す
算出方法			
・年間補助額(国・県・市の補助金の合計)/利用者数			

財政負担額	
2024年度 (R6年度)	2030年度 (R12年度)
1,667	985
-682	

6 東町路線バス(美術館線)の利用者1人当たりの財政負担額			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
1,883	976	円/人	・人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す
算出方法			
・年間補助額(国・県・市の補助金の合計)/利用者数			

財政負担額	
2024年度 (R6年度)	2030年度 (R12年度)
1,883	976
-907	

7 「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額									
基準値	目標値	単位	目標値の考え方						
3,031	2,308	円/人	<ul style="list-style-type: none"> 人件費・燃料費の高騰が見込まれるが、利用者増加・サービスの見直しにより財政負担額の減少を目指す 						
(円/人) <table border="1"> <caption>「電話でバス」の利用者1人当たりの財政負担額</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024年度 (R6年度)</td> <td>3,031</td> </tr> <tr> <td>2030年度 (R12年度)</td> <td>2,308</td> </tr> </tbody> </table>				年度	値	2024年度 (R6年度)	3,031	2030年度 (R12年度)	2,308
年度	値								
2024年度 (R6年度)	3,031								
2030年度 (R12年度)	2,308								
8 移動に困らない市民の割合（70歳以上）									
基準値	目標値	単位	目標値の考え方						
73.2	81.0	%	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度の70歳未満の移動に困らない市民の割合（81%）と同水準まで引き上げ、市全体の移動に困らない市民の減少を目指す 						
(%) <table border="1"> <caption>移動に困らない市民の割合（70歳以上）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024年度 (R6年度)</td> <td>73.2</td> </tr> <tr> <td>2030年度 (R12年度)</td> <td>81.0</td> </tr> </tbody> </table>				年度	値	2024年度 (R6年度)	73.2	2030年度 (R12年度)	81.0
年度	値								
2024年度 (R6年度)	73.2								
2030年度 (R12年度)	81.0								
9 わたらせ渓谷鐵道（市内7駅）の定期外利用者数									
基準値	目標値	単位	目標値の考え方						
7.2	9.5	万人	<ul style="list-style-type: none"> 様々な観光施策との連動により達成を目指す 過去10年で最高である2015年度（平成27年度）値を目指す 						
(万人) <table border="1"> <caption>わたらせ渓谷鐵道（市内7駅）の定期外利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024年度 (R6年度)</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>2030年度 (R12年度)</td> <td>9.5</td> </tr> </tbody> </table>				年度	値	2024年度 (R6年度)	7.2	2030年度 (R12年度)	9.5
年度	値								
2024年度 (R6年度)	7.2								
2030年度 (R12年度)	9.5								

10 公共交通に関するイベント・教室の参加人数			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
0	前年度より増加	人	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通への理解を深める活動を毎年実施し、興味・関心の向上により前年度より増加を目指す
(人)	<p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p>		
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> みどり市が関係する公共交通に関するイベント・教室の参加人数の合計

11 電気バス利用によるCO ₂ の削減量			
基準値	目標値	単位	目標値の考え方
9.4	18.8	t	<ul style="list-style-type: none"> No.2「大間々・笠懸路線バスの利用者数」を踏まえ、設定
(t)	<p>2024年度 (R6年度) 2030年度 (R12年度)</p>		
			算出方法 <ul style="list-style-type: none"> 1人当たりのCO₂排出量*電気バスの利用者数 1人当たりのCO₂削減量=2.32kg/ℓ (CO₂排出量原単位) *13.3km (電気バス片道運行距離) /12.3km/ℓ (一般的な自動車の燃費) ※1人当たりのCO ₂ 削減量は想定値である

4-2 計画の推進・進行管理

(1) 計画の実施主体・役割

本計画を進める上で、行政・交通事業者・利用者に加え、本市に関係する多様な関係者を交えた協働・連携により、計画目標の達成に向けて施策を実行していく必要があります。このため、それぞれの役割分担や協力体制を明確にし、進めていくことが計画の実現には必要となります。

以下に、本計画を推進するための、実施主体・役割・期待される効果を示します。

◎ 計画推進の実施主体・役割・期待される効果

役割：それぞれの主体が行うこと
効果：それぞれの主体が各役割を果たすことで得られる効果

みどり市地域公共交通活性化協議会



役割：計画に基づく事業を推進し、関係者間の調整や評価・検証を行い、市民へ情報を公開。
効果：透明性ある運営により、市民が安心して未来を共有でき、協働意識が育まれる。

行政（みどり市、桐生市、群馬県等）



役割：施策の調整役として関係者を支え、計画を着実に推進。
効果：施策が途切れず実行され、市民が暮らしやすさを実感できる地域づくりにつながる。

交通事業者（鉄道、バス、タクシー事業者等）



役割：計画に基づき公共交通サービスを提供し、関係者と連携。
効果：安全で便利な移動手段を確保し、市民や観光客の安心感と地域への愛着を高める。

利用者（市民、観光客等）



役割：公共交通を積極的に利用し、イベントに参加。
効果：一人ひとりの行動が交通体系を育て、利用者の声が改善につながる。

小学生・中学生



役割：日常的に公共交通を利用し、イベントに参加。
効果：子どもの視点が改善点を示し、「子どもに優しい交通＝誰にでも優しい交通」を実現。

高校生・大学生



役割：通学や生活で公共交通を利用し、その魅力を発信。
効果：若者の発信が交通の魅力を広げ、持続可能な利用習慣を形成する。

市民団体



役割：地域づくりや鉄道沿線の活性化活動を展開。
効果：市民主体の活動が地域の魅力を高め、公共交通への愛着を醸成する。

商業・観光関係者



役割：まちづくりと一体となった公共交通への取組を推進。
効果：公共交通と地域経済・観光が結びつき、利用者増加と地域活性化を実現。

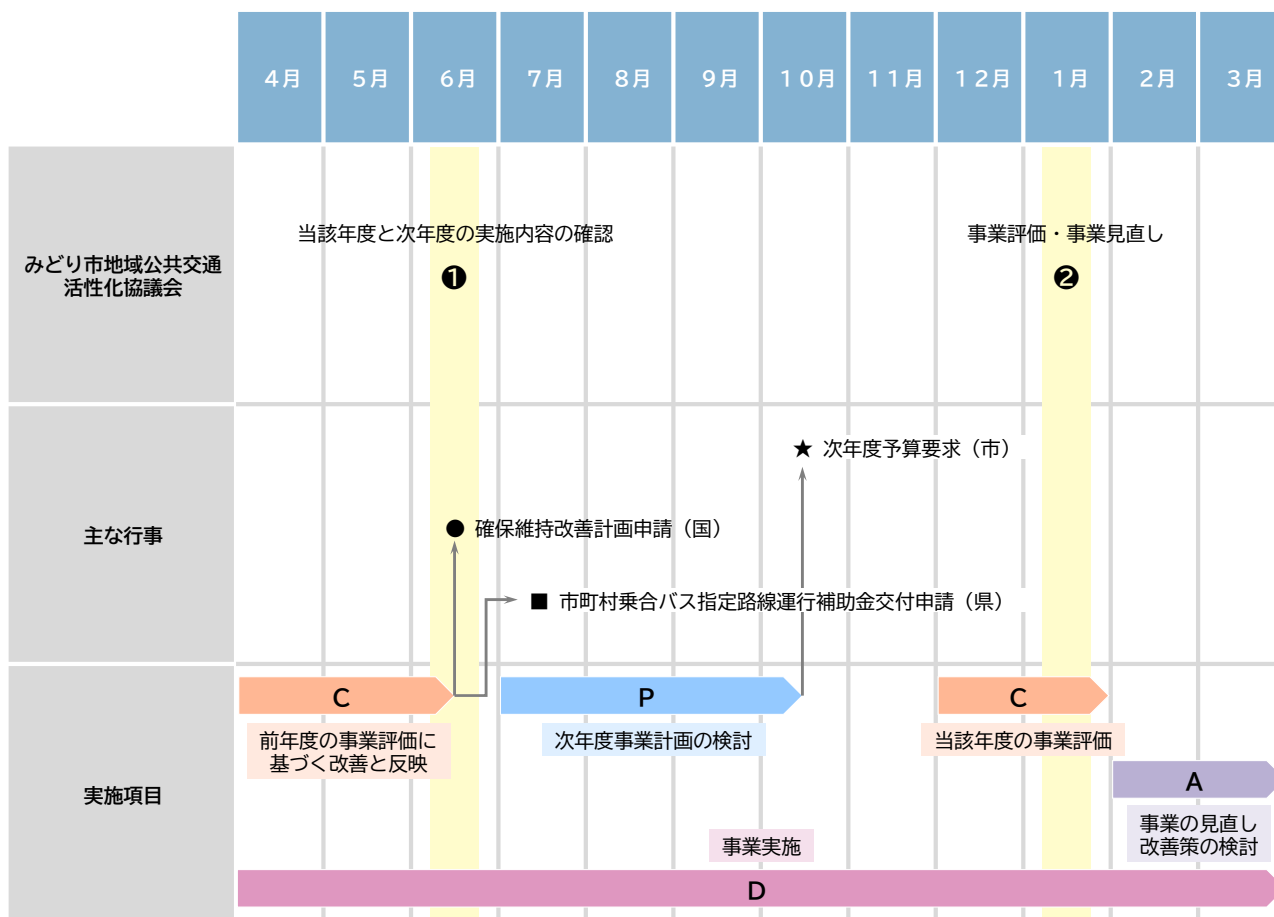
(2) 計画の進捗管理と評価

本計画を実行し、効果を得ていくためにP D C Aサイクルにより進捗確認と評価を行います。

事業の評価にあたっては、「みどり市地域公共交通活性化協議会」において、毎年評価を実施し、その結果に応じて次年度以降の改善策の検討を行います。

計画期間最終年には、期間中のP D C Aの結果に基づいた整理を行い、次期計画へと反映します。

◎ 計画推進のスケジュール



參考資料

参考資料-1 みどり市地域公共交通活性化協議会 委員名簿

(令和8年3月現在)

	区分	団体名	職名	氏名	前任者
1	公共交通事業者等	わたらせ渓谷鐵道株式会社	代表取締役	布施 正明	品川 知一 (~R7.7.10)
2		上毛電気鐵道株式会社	取締役社長	橋本 隆	
3		東武鐵道株式会社	新桐生駅長	塚越 太	
4		東日本旅客鐵道株式会社 高崎支社	桐生駅長	佐太木 確	
5		赤城観光自動車株式会社	代表取締役	木村 茂光	
6		株式会社沼田屋タクシー	代表取締役	小林 康人	
7		一般社団法人 群馬県バス協会	会長	佐藤 俊也	
8		一般社団法人 群馬県タクシー協会	会長	清水 憲明	
9		特定非営利活動法人 グループ28	事務局長	小林 啓二	
10	道路管理者	群馬県桐生みどり振興局 桐生土木事務局	所長	寺内 久夫	宮崎 義明 (~R7.5.13)
11	公安委員会	桐生警察署	署長	中隋 伸洋	大木 晋 (~R7.5.13)
12	学識経験者	国土交通省 関東運輸局 地域公共交通マイスター制度	地域公共交通 マイスター	佐羽 宏之 (監事)	
13		前橋工科大学	教授	森田 哲夫 (会長)	
14	国及び 県の関係行政機関	国土交通省関東運輸局 群馬運輸支局	支局長	堀越 千秋	諏訪 幸夫 (~R7.5.13)
15		群馬県知事戦略部 交通イノベーション推進課	課長	関口 義範	田中 佑典 (~R7.5.13)
16	一般旅客自動車運 送事業者の事業用 自動車の運転手が 組織する団体の代 表	赤城観光自動車株式会社	運行管理者 運転手	松村 雄二	松永 和彦 (~R7.5.13)
17		株式会社沼田屋タクシー	運転手	下山 利和	鏑木 祥倫 (~R7.5.13)
18	住民又は 利用者の代表	みどり市区長会	会長	星野 陽一	永屋 元之 (~R7.5.13)
19		みどり市区長会	副会長	小野川 弘	大江 潤一 (~R7.5.13)

	区分	団体名	職名	氏名	前任者
20	住民又は 利用者の代表	みどり市区長会	副会長	小屋 雅義	三宅 基雄 (~R7.5.13)
21		みどり市老人クラブ連合会	会長	田村 幸男	
22		笠懸地区 民生委員児童委員協議会	副会長	須永 初恵	
23		大間々地区 民生委員児童委員協議会	会長	星野 一雄 (副会長)	
24		東地区 民生委員児童委員協議会	副会長	宮原 富士子	吉沢 峰子 (~R8.1.29)
25		みどり市PTA連合会	専門	富所 哲平	
26	その他 当該地方公共団体 が必要と認める者	みどり市観光協会	代表理事	松嶋 一郎 (監事)	
27		群馬県立大間々高等学校	校長	荻野 葉子	
28		桐生市共創企画部 交通ビジョン推進室	室長	古川 治男	田島 規宏 (~R7.5.13)
29	市長又は その指名する者	みどり市	政策企画 部長	深澤 隆之	
30			保健福祉 部長	五十嵐 健一	関口 智子 (~R7.5.13)
31			産業観光 部長	石坂 克広	高橋 健夫 (~R7.5.13)
32			都市建設 部長	田口 幹根	
33			東支所長	金子 真紀子	

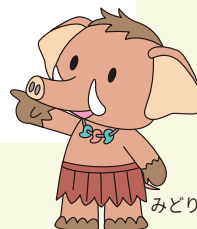


みどり市地域公共交通計画
令和8年3月

〈本計画・みどり市の公共交通に関するお問い合わせ〉

発行 みどり市地域公共交通活性化協議会
 編集 みどり市 政策企画部 企画課
 〒379-2395 群馬県みどり市笠懸町鹿 2952 番地
 TEL : 0277-76-0962 FAX : 0277-76-2449
 Mail : kikaku@city.midori.gunma.jp

みどり市の公共交通についてはこちら▶



みどり市マスコットキャラクター
みどモス

KASAKAKE/OMAMA
Area.